

2021 年度
(令和 3 年度)

聖泉大学看護学部
年次報告書

領域・委員会

目次

1. 領域活動報告

1 - 1	基礎看護学領域	1
1 - 2	成人看護学領域	3
1 - 3	老年看護学領域	5
1 - 4	母性看護学領域	7
1 - 5	小児看護学領域	9
1 - 6	精神看護学領域	11
1 - 7	地域看護学領域	13
1 - 8	在宅看護学領域	15

2. 委員会活動報告

2 - 1	教務委員会	17
2 - 2	学生委員会	19
2 - 3	国家試験対策委員会	21
2 - 4	実習調整委員会	23
2 - 5	F D委員会	25
2 - 6	学術誌編集委員会	27
2 - 7	広報委員会	29
2 - 8	キャリアアップセンター委員会・研究促進	31
2 - 8 - 1	キャリアアップセンター委員会	31
2 - 8 - 2	研究促進	33

1. 領域活動報告

1-1 基礎看護学領域

1. 構成メンバー 西山ゆかり教授、小林菜穂子准教授、井之口文月講師、高島留美助教、川端愛野助教、川橋けい子助手、後藤直樹助手

2. 教育活動

1 年：「基礎看護論Ⅰ」「生活援助論」「生活援助技術論Ⅰ」「基礎看護学実習Ⅰ」

基礎看護論Ⅰで学んだ看護理論を生活援助論・生活援助技術論Ⅰを連動させて講義と演習を行った。基礎看護学実習Ⅰは、コロナ感染者の増加に伴い臨地実習の学生受け入れが中止となり学内5日間に変更した。学内変更に伴い、実習施設（看護部・放射線科・理学療法科・栄養課）とZoom接続をして、遠隔での実習を試みた。またZoomのブレイクアウトルームを活用してコミュニケーション実習を、職員やその家族・大学院生・4年生に協力を得て行い、ほぼ実習目標を達成をした。

1 年：「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」

人体の成り立ち、化学概説、細胞、組織、外皮系、骨格系、筋系、神経系、体性感覚と特殊感覚、心臓血管系、呼吸器系、血液、リンパ系と免疫、消化器系、栄養と代謝、泌尿器系、体液、電解質と酸塩基平衡、内分泌系、生殖器系、発生と遺伝についての講義を行った。

2 年：「看護過程論」「生活援助技術論Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅱ」「フィジカルアセスメント」

肺炎を患う高齢者の事例を用いて、フィジカルアセスメントでは、ゴードンの11の機能的健康パターンの認知-知覚パターン、活動-運動パターン、栄養代謝パターン、排泄パターンのアセスメントを行った。そのアセスメントを基盤に看護診断、看護計画と看護を展開し、看護計画のC-Pにある呼吸器系の看護技術である酸素療法、吸引吸入などの技術演習を組み立てた。前後期を通して3つの科目を連動させたことで、科目間のつながりや2月にある看護過程展開の基礎看護学実習Ⅱに繋げることができた。

3-4 年：「地域統合実習」「卒業研究」「国家試験対策」

「地域統合実習」は、臨地実習4日間で、チーム医療と看護管理実習を行い、学内では多重課題として複数患者受け持ちをチームで取り組んだ。「卒業研究」は12名の学生たちが、文献クリティックから始まり研究計画書作成までをまとめ、研究発表会を学部全体で行い抄録集とした。国家試験対策は基礎ゼミ対策講義と担当ゼミ毎に個別のサポートを行った。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 西山ゆかり，安孫子尚子，中島真由美，安田千寿，間文彦，平田美紀，小林菜穂子，川嶋元子，大久保仁司，漆野裕子：多様な対象に対応できる専門職を育成するカリキュラム－看護師教育課程，聖泉看護学研究，Vol.12，63-70，2022.
- 2) 安孫子尚子，西山ゆかり，川嶋元子，間文彦，安田千寿，中島真由美，平田美紀，小林菜穂子，大久保仁司，漆野裕子：多様な対象に対応できる専門職を育成するカリキュラム－保健師教育課程，聖泉看護学研究，Vol.12，71-74，2022.

- 3) 高島留美, 西山ゆかり, 小森久美子, 香川留美: 実習指導を委譲された看護師の学習ニーズの実態調査, 聖泉看護学研究, Vol. 12, 23-32, 2022.
- 4) 小林菜穂子, 西山ゆかり, 高島留美: 基礎看護学実習 I におけるコミュニケーション能力育成に向けたループブリックの使用による学習活動と学びの内容, 聖泉看護学研究, Vol. 12, 11-22, 2022.
- 5) 川橋けい子, 木村知子: 看護政策に関する研究の動向と課題, 聖泉看護学研究, Vol. 12, 53-61, 2022.

<著書>

- 1) 城ヶ端初子編著, 西山ゆかり (本文 11), 小林菜穂子 (本文 16), 高島留美 (本文 10), 後藤直樹 (本文 6) 他: 改訂版 実践に生かす「看護職者の倫理綱領」, サンライズ出版, 2021.
- 2) 田中幸子 (編著), 西山ゆかり, 小林菜穂子, 高島留美 他: 看護学概論第 5 版看護追求へのアプローチ, 医歯薬出版, 2021.

<学会発表>

- 1) 高島留美, 西山ゆかり, 小森久美子, 香川留美: 実習指導を委譲された看護師の学習ニーズの実態調査, 日本看護研究学会第 35 回近畿・北陸地方会学術集会, 37, 2022.
- 2) 後藤直樹, 西山ゆかり: 看護系大学院を修了した熟練看護師が認識する自己の役割, 日本看護研究学会雑誌, 44 巻 3 号, 415, 2021.

<助成金による研究活動>

- 1) 西山ゆかり, 木村知子, 川嶋元子, 安孫子尚子, 中島真由美, 流郷千幸, 小林菜穂子: 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C), 2021-2025 年度.
- 2) 小林菜穂子, 西山ゆかり, 高木みどり, 井内伸栄, 平岡斎士, 都竹茂樹: 遠隔看護を見据えた看護学生のコミュニケーション能力を高める教育方法の開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C), 2021-2023 年度.
- 3) 記村聡子, 西山ゆかり, 蓮行, 宮下佳代子, 中村陽子: 看護系大学教員を対象としたコミュニティ研修プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C), 2020-2023 年度.
- 4) 井之口文月, 西山ゆかり, 竹村玲子, 小林菜穂子, 高島留美, 川端愛野, 川橋けい子, 後藤直樹: 看護学生の解剖見学における倫理教育の実態調査, 聖泉大学研究促進助成金, 2021 年 4 月-2022 年 9 月.

4. 地域貢献活動

- 1) 西山ゆかり: 彦根市立病院地域医療連携委員 (2021 年～)
- 2) 高島留美 (滋賀主催, 企画運営開催) 後藤直樹 (広報担当): ナイチンゲール看護研究会
- 3) 川橋けい子: 滋賀県看護連盟湖東地区支部施設リーダー (2021 年 4 月～2022 年 3 月)
- 4) 後藤直樹: 滋賀県看護協会第 5 地区支部協力委員 (2021 年 4 月～2022 年 3 月)

1-2 成人看護学領域

1. 構成メンバー

緒方昭子教授，大久保仁司准教授，中島真由美准教授，森島加奈子助教，馬場好恵助教，田中里佳助教，岸本沙希助手

2. 教育活動

1 年：「成人看護論」成人期の特徴について，発達課題と役割，生活の特徴，職業と疾患，生活習慣病，ヘルスプロモーションと経過別の特徴と看護について，毎回の事前学習課題，講義，講義後課題，ならびに講義ごとの学生の振り返りを活用し理解を深めた．またグループごとの課題テーマに沿ったグループワークと発表を通して成人の学びを深めた．

2 年：「成人看護技術論Ⅰ」慢性的な健康問題を持つ対象を理解するための基本的な考え方を理解する為，講義と演習を行った．代表的な疾患を通して，事例に基づきアセスメントするレポート課題を課した．学習目標は概ね達成できた．

「成人看護技術論Ⅱ」急性状況（特に周術期）にある患者とその家族を理解するための基本的な考え方を理解するため，講義と演習を行った．代表的な疾患を通じて，生体侵襲からの回復過程，全身麻酔への全身への影響，起こりやすい術後合併症について，講義・演習・グループワークを通して学びを深めた．

「リハビリテーション看護」リハビリテーションの概念とチーム医療、器官別の障害の特徴とリハビリテーション看護について、講義とグループワーク・発表を通してリハビリテーションにおける看護についての理解を深めた．

3 年：「成人看護技術論Ⅲ」2 事例をもとに実習を見据えた PBL を行った．慢性期は 2 型糖尿病患者の事例を通して看護過程の展開を行った．対面と遠隔両方の授業形態を用い，学生の記録に個別で丁寧に教員からのコメントを返して学習が進むよう授業を行った．急性期は，胃がんで胃切除を受ける患者の事例を通して看護過程を行った．今年度は，zoom によるリアルタイム講義で行ったことで，学生の理解に課題があったが，リフレクションの活用や，講義終了後の時間外に質問を受ける機会を設定するなどして学生の支援を行った．

「成人看護学実習（急性期）」臨地に出る時間数を減らし，1 グループを 2 つに分け，一度に臨地に出る学生数を減らして実習を行った．臨地での実習期間が短く，急性状況の患者を目の当たりにして困惑した学生も少なくなかった．指導者と教員との連携した指導や，学内での振り返りの支援により，実習目標はおおむね達成することができた．

「成人看護学実習（慢性期）」当初は臨地での実習を予定通り行ったが，COVID-19 の感染状況の拡大により，臨地に出られず学内での実習となったグループもあった．学内実習では事例に関する看護過程や演習を行った．実習目標はおおむね達成することができた．

「ターミナルケア論」人生の終末にある対象の身体的・心理社会的特徴を理解し，生活の支援について考えることを目標として講義，演習を行った．各学生が自分自身で考えを深めることができることを重視し，レポート課題を課した．学習到達目標は概ね達成できた．

4 年：卒業研究，地域統合実習，看護師国家試験対策

ゼミ生 13 名に対し，看護師国家試験対策として学生がそれぞれテーマに沿ってレクチャーする方法で週 1 回の勉強会を開催した．地域統合実習では，各自のテーマに沿って臨地で学びを深め，多重課題に関する演習と救急時の処置等の演習ならびにグループ討議を行った．卒業研究においては学生個々のテーマに沿った研究指導を行い，卒業研究計画書の作成を目指して個別的な教育指導を行った．

3. 研究活動

<論文>

- 1) 森島加奈子：救命救急センターで予期せぬ死別を体験した家族の悲嘆に対する看護実践，聖泉看護学研究，Vol.11，2022 掲載予定。
- 2) 西山ゆかり，安孫子尚子，中島真由美，安田千寿，間文彦，平田美紀，小林菜穂子，川嶋元子，大久保仁司，漆野裕子：多様な対象に対応できる専門職を育成する新カリキュラム－看護師教育課程－，聖泉看護学研究，Vol.11，2022 掲載予定
- 3) 安孫子尚子，西山ゆかり，川嶋元子，間文彦，安田千寿，中島真由美，平田美紀，小林菜穂子，大久保仁司，漆野裕子，多様な対象に対応できる専門職を育成する新カリキュラム－保健師教育課程－，聖泉看護学研究，Vol.11，2022

<学会発表>

- 1) 緒方昭子：腹腔鏡手術後患者に対する背部タッチケアの効果，第 41 回日本看護科学学会学術集会
- 2) 馬場好恵，緒方昭子：ICU 中堅看護師の臨床判断の特徴－ICU 経験 3～5 年目の中堅看護師の看護実践に着目して－ 第 41 回日本看護科学学会学術集会
- 3) 田中里佳，安田千寿，森野美由紀：老年看護学教育における高齢者の統合的な理解に関する視点<文献検討> 第 26 回日本老年看護学会学術集会
- 4) 大久保仁司：ギア・チェンジ期にあるがん患者の家族への支援の一考察－がん看護専門看護師の立場から－，第 28 回日本ホスピス・在宅ケア研究会全国大会 IN 熊本
- 5) 岸本沙希：急性心筋梗塞で搬送された危機的状況にある患者に対する救急看護師の認識，第 23 回日本救急看護学会学術集会

<助成金による研究活動>

- 1) 西山ゆかり，流郷千幸，安孫子尚子，川嶋元子，中島真由美，木村知子，小林菜穂子：学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発，日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究（C），2021-2024 年度。

<雑誌投稿>

- 1) 中島真由美：実践報告 Excel で作成した模擬カルテによる成人看護学の授業，看護教育，63（2），142-146 掲載予定

4. 地域貢献

- 1) 大久保仁司，田中里佳，森島加奈子，岸本沙希，中島真由美，緒方昭子：びわ湖東北部地域連携協議会推進事業，がん看護にかかわる看護師のための研修会事務局、年間 3 回の研修会の企画と運営
- 2) 緒方昭子：日本統合医療学会理事、日本統合医療学会認定委員、日本統合医療学会関西世話人、第 25 回日本統合医療学会査読委員
- 3) 大久保仁司：公立大学法人和歌山県立医科大学大学院修士課程非常勤講師
職業人講話：彦根翔西館高等学校，甲西高等学校、
八幡高等学校高大連携講座
- 4) 中島真由美：滋賀県看護学校協議会副会長，滋賀県ナースセンター事業運営委員会委員，滋賀県看護職員確保対策推進協議会専門部会部会員，県立看護師等養成所の在り方に関する専門部会部会員，滋賀県専任教員養成講習会演習支援講師

1-3 老年看護学領域

1. 構成メンバー

坂田直美教授、安田千寿准教授、森野美由紀講師、大阪絃子特任助手、
村山仁衣菜助手（9 月に着任）

2. 教育活動

1) 2 年次前期：老年看護論（2 単位）

今年度は 4/5 が対面授業が可能であったが、いつ遠隔授業になっても対応できるよう授業時間内に作成できるワークシートと課題レポートを組み合わせで実施した。また、昨年の結果から、定期試験のみでは勉強が追い付かない学生が過半数いることがわかったため、昨年老年看護技術論Ⅰで好評だった 15 分程度の単元テストを老年看護論でも導入した。また、ワークシート・課題レポートの配点と単元テストの配点を各々 50%とし、自主学習成果の評価点を多くした。その結果、昨年よりもクラスの平均点は上がった。しかし、他の科目の課題学習と重なり、中には消化できない学生がいることがわかった。次年度は、授業の中盤で学生の学習能力に合わせた調整が必要であると考えている。

2) 2 年次前期：老年看護学実習Ⅰ（1 単位）

コロナ禍において臨地実習ができなかったため、映像資料を用いた高齢者事例に対し対象理解を中心に学びを深めた。自宅での個人学習と学内でのディスカッション、ZOOM によるカンファレンス、教員の座談会、シミュレーションを組み合わせで行うことで、その人らしさを何度も視点を変えて洞察し、人に合わせた関わりを考察できた。

3) 2 年次後期：老年看護技術論Ⅰ（2 単位）

今年度は昨年度の反省を踏まえ、認知症の軽症者が生き生きと生きている姿を授業の最初の方で映像資料を通して紹介し、ネガティブな印象をできるだけ少なくする工夫を行った。その結果、認知症患者へのポジティブな印象を持つ人が増え一定の成果が得られた（レポートより）。単元テストは、昨年良かったとする者和其他の科目の課題学習に追われ、単元テストの勉強が追い付かなかった、負担だったとする者がいたことから、今年度は単元テストの回数を減らし実施した。その結果、授業評価でも負担が大きかったと記載した学生はいなかった。次年度は、さらに認知症高齢者に対するポジティブな側面を紹介したうえで、学生個々が認知症高齢者ケアを考えられるように授業方法を検討したいと考えている。看護倫理においては高齢者の事例を用い、当事者の尊厳や環境の事情も含め現状の把握と課題を考察した。コロナ禍において遠隔授業も併用したためか、レポート課題の提出状況が悪く、学生の理解度を確実に確認することが困難であった。

4) 3 年次前期：老年看護技術論Ⅱ（2 単位）

コロナ禍での授業変更に伴い、高齢者事例の看護展開はそのままにしながら、zoom で対象高齢者に出演していただき、情報収集、看護支援に対する反応をご本人から得た。本人のニーズや尊厳を大切にする高齢者看護において、現実的な学びがあった。また、基本的な高齢者看護の技術においては、感染対策上、学生個々が実践するまでには至らず課題が残った。

5) 3～4 年次：老年看護学実習Ⅱ（3 単位）

豊郷病院、ヴォーリズ記念病院、山崎病院、近江温泉病院の実習先において、10 月から 12 月までは実習ができた。1 月以降はコロナ禍における感染予防の観点から、自宅学習と学内実習を組み合わせでの実施となった。どちらの実習方法においても、高齢者の持てる力や限界、自立・自律について十分に考える機会を確保し、考察が難しい場面においては、実習指導者を通しての情報収集やアセスメントで、また、学内実習では映像資料を用いた事例とチーム討議を行うことにより目標達成に近づけた。学内実習においては、看護技術、退院支援、多職種連携において課題が残った。

6) 4 年次：地域統合実習（2 単位）

学生の実習計画に沿って施設が決定し、山崎病院、ヴォーリズ記念病院、アロフェンテ彦根の 3 施設で 7 名の実習を行った。実習における自己課題が明確であったため、目標設定に合わせた実践と指導ができた。また学生の興味関心も様々であり、実習指導者も含めそれに沿うよう環境を整えたことが、意欲的な実習につながった。

7) 4 年次：卒業研究（4 単位）

ゼミ生 7 名に対し、ゼミ前半は全員の集合形式で、後半は担当制の個別対応で指導を行った。7 名すべてが関心のあるテーマで研究計画書を書き上げることができた。

8) 4 年次：国家試験対策

感染対策に十分配慮しつつ、半日ずつゼミ生で集まり勉強会を行った。勉強会での知識を確実にするために、教員も担当制で国試問題を作成し学生に都度課した。また、適宜学習予定表を見直し、学習方法について助言・指導した。

3. 研究活動

<論文>

1) 西山ゆかり，安孫子尚子，中島真由美，安田千寿，間文彦，平田美紀，小林菜穂子，川嶋元子，大久保仁司，漆野裕子：多様な対象に対応できる専門職を育成する新カリキュラム－看護師教育課程－，聖泉看護学研究 Vol.11，2022.3.

2) 安孫子尚子，西山ゆかり，川嶋元子，間文彦，安田千寿，中島真由美，平田美紀，小林菜穂子，大久保仁司，漆野裕子：多様な対象に対応できる専門職を育成する新カリキュラム－保健師教育課程－，聖泉看護学研究 Vol.11，2022.3.

<学会発表>

- 1) 田中里佳、安田千寿、森野美由紀：老年看護学教育における高齢者の統合的な理解に関する視点，第 26 回日本老年看護学会学術集会，2021 年 6 月．
- 2) 安田千寿，森野美由紀：実習における高齢者理解の複雑さに対応する教材の検討－高齢者の実演、視聴覚教材を活用した研究の動向－，第 41 回日本看護科学学会学術集会，2021 年 12 月．

4. 地域貢献

1) 坂田直美

- ・ 彦根市地域支援会議委員長
- ・ 湖東圏域看護ネットワーク推進会議委員
- ・ 社会福祉法人 松風会 苦情処理第三者委員
- ・ 厚生連久美愛病院看護アドバイザー

2) 安田千寿

- ・ 令和 3 年度長浜市介護認定審査会委員
- ・ 滋賀県レイカディア大学米原校講師、老化と食機能の変化についての講義（7 月 28 日）、滋賀県立長寿社会福祉センター
- ・ 滋賀県レイカディア大学草津校講師、老化と食機能の変化についての講義（7 月 29 日）、排泄機能の変化への対応（1 月 6 日）、滋賀県立長寿社会福祉センター
- ・ 近江八幡市立総合医療センター第 40 回看護研究発表会における相談活動（6 月 8 日）、発表会講評（3 月 5 日）、近江八幡市立総合医療センター
- ・ 愛荘町介護保険運営協議会委員・副会長
- ・ 水口東高校模擬授業、高齢者の理解と支援（12 月 13 日）、水口東高等学校

3) 森野美由紀

- ・ 八幡商業高校模擬授業、高齢者の理解（7 月 12 日）、八幡商業高等学校

1-4 母性看護学領域

1. 構成メンバー

木村知子教授，漆野裕子講師，花原恭子講師，戸田美幸助教

2. 教育活動

2 年：母性看護論（30 時間 2 単位）では、母子を取り巻く社会や親子、家族関係の変化、母子の権利などの理解を深める授業内容とした。本年度は、COVID-19 感染拡大状況に合わせて、対面、オンデマンド、ZOOM にて講義を行った。講義の前後には事前・事後の課題に取り組み、学びを深める機会とした。また、本学別科助産専攻のウイメンズヘルスの講義の一貫として、助産師学生による妊娠適齢期、性感染症、性的同意などについての特別講義を実施し、両学生ともに学びが大きかった。

母性看護技術論Ⅰ（30 時間 2 単位）では、周産期における正常経過と看護について講義を行っている。講義形式は対面とオンデマンドにて実施した。妊娠経過に伴う保健指導内容、分娩経過と看護、産褥経過における心身の変化と看護、正常新生児の生理的变化と看護の視点について、母性看護学実習にも活用できる経過一覧表の作成を課題とした。さらに対象理解を目的として、卒業生に協力を得て、初産婦や経産婦の妊婦および産後 1 か月の母子に特別講師として 2 組（内 1 組は夫婦）に自身のことを話してもらった授業を 2 コマ取り入れ、学生のイメージを具体化するための工夫をした。

3 年：母性看護技術論Ⅱ（60 時間 2 単位）では、講義及び技術演習を含む内容とした。周産期における異常と、正常産褥・新生児を理解するにあたり、ウェルネス志向型の看護過程の展開を行った。初産婦・経産婦それぞれの妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期の事例のアセスメントから看護計画立案までを課題とした。技術演習では、密集を避けるため、2 部制 3 グループに分け、妊婦健康診査に必要な計測、NST モニターの装着と判読、産褥期の子宮底長測定、乳房管理、新生児の全身の観察と児の抱き方を行い、学習目標はおおむね達成できた。

母性看護学実習（90 時間 2 単位）は、COVID-19 感染症拡大のため、15 グループのうち 13 グループが 5 施設の病院実習を行った。その内、2 グループは 1 日、4 グループは 2 日、7 グループは 6 日間（予定通り）の実習となった。2 グループだけ臨地実習が不可となり、学内や自宅 ZOOM にて模擬事例を用いての看護展開を行った。学生 2 名 1 組で母子を受け持ち、ウェルネス志向型で看護過程を展開し、学内にて保健指導の実施を行った。臨地実習が短縮となったグループは、周産期の看護の学びを深めるために動画を活用した。また、育児中の母親に協力を得て、バースレビュー（分娩の振り返り）や育児について、ZOOM や対面にて学生がコミュニケーションできる機会を設け、対象の理解を深めることができた。以上のことから、実習全体を通しておおむね目標達成に繋がった。

4 年：卒業研究では、11 名のゼミ生それぞれのテーマに対しての研究指導を行った。また、ゼミ生 6 名（他領域のゼミ生 1 名含む）に、進学受験指導を行い、計 3 名が本学別科助産専攻に進学した。

別科助産専攻：木村がウイメンズヘルス 2 単位 30 時間、助産診断・技術学Ⅲのうち 2 コマ（ベビーマッサージ）を担当した。助産学実習Ⅰ（分娩介助実習）、Ⅱ（継続事例実習）については、漆野、花原、戸田がのべ 32 日間担当した。

3. 研究活動

<著書>

- 1) 磯邊厚子，植村小夜子，戸田美幸，松永早苗：女性と子どもの健康が未来を拓く ケイパビリティ・アプローチ，晃洋書房，2022
- 2) 花原恭子：立岡弓子，桑田弘美他（編著）：母性看護 小児看護 実習あるあるお助けブック（受け持ちが帝王切開になったら、妊娠期から産褥期までのアセスメントのお基本をおさえようの 10 頁を担当），サイオ出版，99-102，2022

<論文>

- 1) Sachi Tsuchikawa，Kyoko Hanahara，Yumiko Tateoka，Masahito Hitosugi：Common Pregnancy Complaints Can Lead to Motor Vehicle Collisions or Near-Miss Incidents、healthcare，10(2)，279，2022

- 2) 小森久美子, 木村知子, 南谷志野: 中規模病院の看護部長が就任後に直面する課題, 聖泉看護学研究, 11, 1-9, 2022
- 3) 川橋けい子, 木村知子: 看護政策に関する研究の動向と課題, 聖泉看護学研究, 11, 53-61, 2022
- 4) 土川祥, 館下麻美, 井谷英幸, 磯野みなみ, 宮武美佳, 中井抄子, 喜多伸幸, 立岡弓子, 花原恭子: 分娩介助シミュレーション実習の取り組みと助産診断過程の学習効果, 滋賀県母性衛生学会誌, 20. 21, 31-38, 2021
- 5) 花原恭子, 立岡弓子, 一杉正仁: つわりと自動車運転～妊婦運転者に対する実態調査～, 日交通科会誌, 21 巻 1 号, 26-32, 2021
- 6) 井上美咲, 西川みゆき, 木村知子, 漆野裕子: 緊急帝王切開術を受け母子分離となった初産婦の思い, 滋賀県母性衛生学会誌, 20・21, 47-54, 2021
- 7) 西山ゆかり, 安孫子尚子, 中島真由美, 安田千寿, 間文彦, 平田美紀, 小林菜穂子, 川嶋元子, 大久保仁司, 漆野裕子: 多様な対象に対応できる専門職を育成するカリキュラム - 看護師教育課程, 聖泉看護学研究, Vol. 12, 63-70, 2022
- 8) 安孫子尚子, 西山ゆかり, 川嶋元子, 間文彦, 安田千寿, 中島真由美, 平田美紀, 小林菜穂子, 大久保仁司, 漆野裕子: 多様な対象に対応できる専門職を育成するカリキュラム - 保健師教育課程, 聖泉看護学研究, Vol. 12, 71-74, 2022

<学会発表>

- 1) 磯邊厚子, 植村小夜子, 戸田美幸, 松永早苗: スリランカ農園保育所の子どもの歯の健康と課題, 第 35 回日本国際保健医療学会東日本地方会, 抄録集, 1, 2021 年 6 月
- 2) 戸田美幸: 在日外国人母が早期乳児期に育児を行う過程で経験した困難とその対処に関する研究, 聖泉大学看護フォーラム, 2021 年 9 月
- 3) 高木由美, 花原恭子, 立岡弓子: 妊娠後期から産後 3 か月までの女性の睡眠の実態調査とマイナートラブルとの関連, 第 23 回日本母性看護学会学術集会プログラム, 34, 2021 年 6 月
- 4) 花原恭子: 小児・妊婦(胎児)の交通事故死傷者の低減を目指して 妊婦の自動車乗車時の安全について, 第 57 回日本交通科学学会学術集会シンポジウム, 日交通科会誌 21 巻補冊, 32, 2021 年 10 月
- 5) 花原恭子, 立岡弓子, 一杉正仁: つわりと自動車運転～妊婦運転者に対する実態調査～, 聖泉大学看護学部 看護フォーラム, 2021 年 9 月
- 6) 漆野裕子, 中村美由紀, 木村知子, : 地域の母子と看護大学生との関わりがもたらす意味, 第 36 回日本助産学会学術集会, 2022 年 3 月 (優秀演題賞受賞)

<助成金による研究活動>

- 1) 文部科学省研究助成 基盤 B (課題番号 JP19H04372) 磯邊厚子, 戸田美幸, 松永早苗, 植村小夜子: スリランカ農園地域の働く母と子どもの自由一潜在能力アプローチの実践, 2019-2021
- 2) 文部科学省研究助成 若手研究 (課題番号 19K19551) 木村知子: 民間中小病院における看護職の多様な雇用形態循環モデルの導入と検証, 2019-2021
- 3) 文部科学省研究助成 基盤 C (課題番号 21K10591) 西山ゆかり, 木村知子, 川嶋元子, 安孫子尚子, 中島真由美, 流郷千幸, 小林菜穂子: 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発, 2021-2024
- 4) 聖泉大学看護学部研究助成費
花原恭子: 周産期メンタルヘルスの取り組みにおけるマインドフルネスに関する文献検討, 2021
- 5) 聖泉大学看護学部研究助成費
漆野裕子: 0 歳児をもつ母親が認識する妊娠期からの家事・育児役割分担に関するコミュニケーションの課題, 2021

4. 地域貢献

- 1) 木村知子: 滋賀県母性衛生学会 理事 同学術雑誌査読委員
滋賀県助産師出向支援協議会委員 滋賀県看護協会 認定看護管理者教育運営委員会委員
彦根市立病院 地域医療連携委員会 委員 (～7 月) 同病院 倫理委員会外部審査委員
東近江総合医療センター 地域医療支援病院運営委員会委員
滋賀県立大学 経営協議会外部委員
- 2) 漆野裕子: 滋賀県母性衛生学会 幹事 第 31 回滋賀県母性衛生学会学術集会実行委員
- 3) 花原恭子: 滋賀県看護協会 助産師職能委員
- 4) 戸田美幸: 日本国際看護学会 学術誌編集委員会委員

1-5 小児看護学領域

1. 構成メンバー

流郷千幸教授、平田美紀准教授、鈴木美佐准教授、村井博子講師

2. 教育活動

○授業

COVID-19 感染防止のために、manaba による課題とテスト、対面授業を組み合わせ、講義を行った。

2 年生：小児看護論では、manaba を用いた遠隔講義のほか、PBL による manaba 課題（子どもと安全・子どもと栄養）を提示し、主体的な学習を促進した。小児看護技術論Ⅰでは、子どもの成長・発達の特徴及び養護・生活支援について講義・演習を行った。健康な子どもの遊び演習では例年実施している保育園児を招いた遊びの展開（グループワーク）から、発達段階に応じた絵本の作成（個人課題）に変更し、学びの発表を全体で実施した。

3 年生：小児看護技術論Ⅱでは、例年実施しているプレパレーション演習（グループワーク）から、事例に対するプレパレーションツール作成（個人課題）に変更して実施し、学びの発表は全体で行った。看護過程の展開は個人学習、manaba、対面での指導を組み合わせ、技術演習はグループの人数を少なくして実施した。

○実習

小児看護学実習（90 時間 2 単位）のうち、保育園実習（つくし、八木荘）は COVID-19 感染防止のために半日（9：00-13：00）×2 日間の実習を行った。特別支援学校実習（野洲、甲良）は通常通り 2 日間の実習を行った。

病院実習は、長浜赤十字病院（2G）、彦根市立病院（4G）、近江八幡市立総合医療センター（3G）、滋賀県立小児保健医療センター（6G）において、COVID-19 感染防止のために半日（9：00-13：00）×3 日間＋学内 2 日間の実習を行った。

○地域統合実習、卒論

ゼミ生 11 名に対し、地域統合実習、卒業研究の指導を行った。地域統合実習は各自で実習目的をたて、八木荘保育園、野洲養護学校で行いまとめた。卒業研究においても、それぞれの関心のあるテーマをもとに研究計画書を作成した。

3. 研究活動

<論文>

- 1) 流郷千幸, 平田美紀, 鈴木美佐, 村井博子他 (2022), 幼児のプレパレーションに対する医療者の認識, 聖泉看護学研究, 11, 45-54.
- 2) 平田美紀, 森口弘美, 堀田法子 (2022), 採血を受ける 2 歳未満の子どもに付き添う母親の行動の意味－エピソード記述を用いて－, 日本小児看護学会誌, 31, 1-8.

<学会発表>

- 1) 平田美紀, 流郷千幸, 鈴木美佐, 村井博子 (2021) : 多職種協働プレパレーションを目指した PMEC スタッフ研修会の現状と課題－コロナ禍でのオンライン研修を通して－, 第 68 回日本小児保健協会学術集会 プログラム集, 45.

- 2) 平田美紀, 山口大輔, 堀田法子 (2021) : 採血を受ける 2 歳未満の子どもと母親への看護師の支援と
思い, 第 41 回日本看護科学学会学術集会 プログラム集, 107.

＜助成金による研究活動＞

- 1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
平田美紀 : PCP プログラムの開発 : 子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のためのプログラム
(科研課題番号 : 19K11102)
- 2) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
鈴木美佐 : 食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの獲得過程の解明と支援プログラム構
築 (科研課題番号 : 21K10927)
- 3) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
流郷千幸 (研究分担者) : 家族も共有できる在宅重症心身障害児における体調アセスメントツ
ールの開発および評価 (代表者 : 古株ひろみ 科研課題番号 : 15K11734)
- 4) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
流郷千幸 (研究分担者) : 学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育
成プログラム開発 (代表者 : 西山ゆかり 科研課題番号 : 21K10591)
- 5) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
流郷千幸, 鈴木美佐, 村井博子 (研究分担者) : PCP プログラムの開発 : 子どもの採血・血
管確保時の苦痛緩和のためのプログラム (代表者 : 平田美紀 科研課題番号 : 19K11102)
- 6) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
流郷千幸, 平田美紀, 村井博子 (研究分担者) : 食物アレルギー児の社会的集団生活スキルの
獲得過程の解明と支援プログラム構築 (代表者 : 鈴木美佐 科研課題番号 : 21K10927)

4. 地域貢献

- 1) 領域全員
 - ① 「子どものプレパレーション検討会」の開催 (参加者 20 名)
 - ② PMEC スタッフ研修会
 - ・ 2021 年度 PMEC スタッフ研修会 (2021.11.23 オンライン開催 参加者 18 名)
- 2) 流郷千幸
 - ・ 日本家族看護学会選任査読委員
 - ・ 日本看護研究学会評議委員
 - ・ 彦根長浜地域プラットホーム事業協議員
- 3) 鈴木美佐
 - ・ 滋賀県看護協会看護学会委員会 副委員長
 - ・ 滋賀県看護協会 令和 2 年度看護研究発表会 実行委員
- 4) 村井博子
 - ・ 滋賀県看護学校協議会臨地実習委員会委員

1-6 精神看護学領域

1. 構成メンバー

間文彦教授，篠田紀一郎助教，佐伯興平助教

2. 教育活動

1 年：人間関係論は（間）．看護師として重要である援助的コミュニケーションのあり方を理解するため，manaba を中心に対人関係における自分自身のコミュニケーションの傾向を再考察できるような課題構成を行った．

2 年：精神看護論は（間）．精神看護学において基礎となる疾患や社会復帰に向けての活動や，精神障害者の処遇や歴史的背景を踏まえた講義を行った．

精神看護技術論Ⅰはオムニバスで開講した（篠田，佐伯，間）精神障害をもつ人のストレングスの捉え方など，事例を通して考えたことをレポートにまとめ manaba に提出．

3—4 年：精神看護技術論Ⅱはオムニバスで開講した（篠田，間）．看護過程を展開する理論としてオレムのセルフケアを中心に講義をおこなった．また，病院から地域へと転換されている精神保健の流れから，ストレングスモデルを使って患者を理解するための講義と演習を取り入れた．

精神看護学実習は，新型コロナウイルス対策を行い，水口病院 2 病棟（閉鎖病棟・回復期開放病棟）で実習を行なった．しかし，2021 年 1 月から新型コロナ感染拡大に伴い，水口病院 2 グループ，豊郷病院 5 グループが学内実習で対応した．内容としては，事例を基に看護過程を行った．また，プロセスレコードは教員が患者役となり自己のコミュニケーションの振りかえりが行えた．閉鎖病棟と開放病棟のハード面とソフト面の違いの理解を深めるために，実習最後の午前に各病棟から病棟の特性・入院患者の入院形態・病態の説明等を発表し共通認識を深める指導を取り入れた．地域における精神障害者の社会資源として，精神障がい者通所施設就労継続支援 B 型作業所モコハウス・ワークステーション虹での半日実習は達成できた．小規模作業所の理解を深めることができた．

カンファレンスは，病棟指導者に参加してもらい毎日 30 分程度行った．実習初日は，患者とどのように関わればよいかとまどう学生が多かった．しかし，プロセスレコードの活用により自身の傾向を理解することができた．また，患者さんの健康な側面やその人を中心にセルフケア援助を理解することができた．

4 年：統合実習においては，精神障がいをもつピアサポーターをゼミに招き，「リカバリーストーリー」を聞かせていただく機会を設けた．それにより，学生の精神看護への理解をより深めることができた．

卒業研究においては，それぞれの研究テーマを中心に精神障害者の急性期から退院支援に向けた看護職の役割を主体的に学習することができた．

3. 研究活動

<論文>

- 1) 安孫子尚子, 西山ゆかり, 間文彦, 他. (2021) : 多様な対象に対応できる専門職を育成する新カリキュラム—保健師教育課程—, 聖泉看護学研究, 11, 71-74.
- 2) 西山ゆかり, 安孫子尚子, 間文彦, 他. (2021) : 多様な対象に対応できる専門職を育成する新カリキュラム—看護師教育課程—, 聖泉看護学研究, 11, 63-70.

<学会発表>

なし

<助成金による研究活動>

なし

4. 地域貢献活動

各教員

- 1) 間文彦：日本看護協会滋賀県支部主催 ―看護研究をやってみよう― (Zoom) 講師
- 2) 間文彦：彦根市公共上下水道事業審議会委員
- 3) 間文彦：彦根市地域支援会議委員 理事
- 4) 間文彦：びわ湖東北部地域連携 市民公開講座 (WEB)
- 5) 間文彦：びわ湖東北部地域連携 健康講座 (WEB)
- 6) 間文彦：滋賀県社会福祉協議会委員
- 7) 間文彦：第 39 回滋賀県社会福祉学会 座長
- 8) 間文彦：近江地域学会 理事
- 9) 篠田紀一郎：滋賀医科大学 医学部看護学科 臨床看護学講座 精神 客員助教

I-7 地域看護学領域

1. 構成メンバー

安孫子尚子准教授，後藤則子助教，大塩佳名子助教

2. 教育活動：

2 年：「地域看護論」では公衆衛生看護の理念や活動の歴史，看護の対象に対する活動の展開について講義を行った。また，滋賀県の健康危機管理（COVID-19 を含めた感染症対策と災害保健活動）に関する現状の理解を促すために特別講師を招聘し学びを深めた。

「地域看護技術論Ⅰ」では，保健師が地域住民に行う健康への支援について，母子事例を用いた家庭訪問援助計画作成，ライフステージ別の健康教育の企画について演習を行った。個人やグループで取り組む課題は，教員が授業毎に助言を行うことで学習目標を達成した。

「地域看護技術論Ⅲ」では，滋賀県内の模擬市町のデータによる地域診断の演習を行った。遠隔による講義や対面でのグループワークという授業形態を工夫し成果発表を行った。

3 年：「地域看護技術論Ⅱ」では対象別保健活動について主に Zoom による遠隔授業を行った。保健医療福祉行政の法律に基づいて行う対象別の保健活動を説明し，課題付レポートに取り組むことで学生の学びを促進した。健康危機管理（感染症対策と災害保健活動）では，滋賀県保健師による講義を行い，滋賀県の現状と取り組みについて理解を促した。

4 年：「地域看護学実習」では，学生 30 名が県内保健所，市町保健センター，地域包括支援センターで実習を行った。家庭訪問では学生のみで行う継続訪問の実施を目指し，家庭訪問報告会で学生は個別事例から地域課題へのつながりを意識した。地域診断は，学生が実習前後の学内と実習地の発表会で地域特性を理解した。また，実習での健康教育や地域診断というグループでの取り組みは，学生自身が自分の役割を果たし，建設的に話し合い，グループダイナミックスを学ぶ機会となった。

「卒業研究」では，7 名が研究計画書作成に取り組んだ。

「地域統合実習」では，7 名の学生が彦根市の地域データをアセスメントし，地域住民に勧める減塩の食生活について取り組んだ。

3. 研究活動

<論文および報告書>

- 1) 安孫子尚子，西山ゆかり，川嶋元子，他. (2021)：多様な対象に対応できる専門職を育成する新カリキュラムー保健師教育課程ー，聖泉看護学研究，11，71-74.
- 2) 西山ゆかり，安孫子尚子，中島真由美，他. (2021)：多様な対象に対応できる専門職を育成する新カリキュラムー看護師教育課程ー，聖泉看護学研究，11，63-70.
- 3) いずみ健やか塾，多胡陽介，安孫子尚子 (2021)：「いずみ体操」DVD，いずみ健やか塾，聖泉大学地域交流センター

<学会発表>

- 1) 安孫子尚子 (2021)：元気高齢者の人生の最終段階における意思決定とソーシャルキャピタルの関連，第 80 回日本公衆衛生学会総会，P420.
- 2) 安孫子尚子，巽あさみ (2021)：Relationship between Knowledge, Attitudes, and Practices (KAP) in End-of-Life Decision-Making and Factors Considered Important among Healthy Japanese Elderly, 6thGNPHN, P313.
- 3) 安孫子尚子，巽あさみ (2021)：元気高齢者の人生の最終段階における医療・ケアの意思決定と医療関連知識との関連，第 10 回日本公衆衛生看護学会，P165.

- 4) 後藤則子, 安孫子尚子 (2021) : 高次脳機能障害者の就労における家族の捉え方, 第 52 回日本看護学会学術集会, P258.
- 5) Oshio Kanako, Ryugo Chiyuki (2021) : The Association between a Japanese Couple's Divergent Perceptions of Marital Satisfaction and Their Affective Responses to Their Infant's Crying, 24th EAST ASIAN FORUM OF NURSING SCHOLARS, P.40.
- 6) 大塩佳名子, 安孫子尚子 (2022) : 乳幼児揺さぶられ症候群／虐待による乳幼児の頭部外傷の先行要件に関する文献検討, 日本看護研究学会第 35 回近畿・北陸地方学術集会, P32.

<助成金による研究活動>

- 1) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
安孫子尚子: すこやかな最終段階を迎えるための意思決定の促進とソーシャルキャピタルの醸成,
(課題番号 17K12603) 2017-2021
- 2) 文部科学省研究費助成事業 基盤研究 (C)
安孫子尚子 (研究分担者): 「学生から新人看護師への役割以降プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発」 (代表者: 西山ゆかり, 課題番号: 21K10591) 2021-2024
- 3) 文部科学省研究費助成事業 若手研究
大塩佳名子: 父親・母親による乳幼児揺さぶられ症候群のリスクスクリーニング尺度の開発, (課題番号 19K196720) 2019-2022

4. 地域貢献活動

1) 領域全員

- (1) びわ湖東北部地域版「SDGs でつなぐ学生の地域連携プロジェクト」
 - ①彦根市民の健康課題に対する予防的支援のための教材開発: 彦根市健康推進課
 - ②がん患者に対する支援～学生が簡単に制作できる「タオル帽子」～: ピンクリボンひこね
- (2) びわ湖東北部地域生涯学習講座市民教養講座「コロナ禍で大切なこころの健康」(WEB) 講師, 2021 年月～4 月末, 聖泉大学

2) 安孫子尚子

【彦根市】高齢者保健福祉協議会会長, 健康づくり推進協議会会長, 総合計画審議会委員, 地域密着型サービス運営委員

- ・八幡高校 キャリア教育推進委員
- ・令和 3 年度滋賀県立高等学校生徒を対象とする大学連続講座 講師, 2021 年 7 月 27 日
- ・私立 4 高等学校と聖泉大学の連携講座 講師, 2022 年 3 月 25 日
- ・いずみ健やか塾 (自主活動グループ) による健康体操の開発支援を行った。
- ・ピンクリボンひこね実行委員会監査, がん検診推奨チラシ作成と彦根市内中学校の配布

3) 後藤則子

【滋賀県】精神医療審査会 (6 回/年), 精神保健法第 38 条の 4 の規定に基づく退院等の請求にかかる面接調査 3 名

【彦根保健所】令和 3 年度湖東圏域保健師初任者研修会 講師

【高島保健所】令和 3 年度高島管内新任期保健師研修会 講師

4) 大塩佳名子

- ・ピンクリボンひこね実行委員, 会議参加

1-8 在宅看護学領域

1. 構成メンバー

磯邊厚子教授，川嶋元子准教授，佐藤綾野助教

2. 教育活動

2 年：毎授業終了後，5 分間テストを manaba で行い，授業の振り返りと学習確認を行った。manaba を利用し，自己の課題への気づきと同時に，国家試験問題も提示し，知識の蓄積，拡大を促した。レポート課題は個々にフィードバックし，誤字脱字は指導し，文章の書き方や「論理的に書く」習慣を教授した。授業教材は現場実践が理解しやすく，さらに感性が育つよう，相応しい医療モデルビデオ等を取り入れた。

3-4 年：在宅看護過程の内容の充実と医療的技術（吸引，胃ろう）は現場の実態に合わせた方法で教授した。訪問看護ステーションの管理者にマナー演習に参加頂き，在宅看護の特性と役割の認識向上を高めた。地域包括支援センターの役割や認知症療養者の地域の取り組みを外部講師の協力を得て教授した。Zoom 授業であっても，ロールプレイやグループワーク等，学生参画型授業を取り入れ，学生の主体性を促した。看護過程においては，個別での記録指導を行い学生一人一人に合わせることで，学生の看護過程への理解が深まるようにした。

臨地実習の工夫：コロナ禍での短期実習対策として，現場実習を最低 1 日は経験し，学内実習や自宅学習にて学習を補完した。訪問看護ステーション 1 日間，地域包括支援センターには保健師選択をしていない学生は全て施設実習を体験することができた。

4 年：卒業研究は，学生の関心のあるテーマを尊重し，内容を深め，計画書作成まで全員が到達した。地域統合実習は「看護小規模多機能型施設」と「地域包括ケアセンターいぶき」で実施した。地域で療養者を支える仕組みと高齢者や障害者，認知症患者の多い地域での看護活動を学んだ。国試対策は学生の個別性に応じ指導を行い，在宅ゼミでは本年も国試を落とした学生はいなかった。

3. 研究活動

< 著書 >

- 1) 磯邊厚子，植村小夜子，戸田美幸，松永早苗：「女性と子どもの健康が未来を拓くーケアパビリティアプローチ」，2 月 2022.

< 論文 >

- 1) 西山ゆかり，安孫子尚子，中島真由美，安田千寿，間文彦，平田美紀，小林菜穂子，川嶋元子，大久保仁司，漆野裕子：多様な対象に対応できる専門職を育成するカリキュラム - 看護師教育課程，聖泉看護学研究，12，63-70，2022.
- 2) 安孫子尚子，西山ゆかり，川嶋元子，間文彦，安田千寿，中島真由美，平田美紀，小林菜穂子，大久保仁司，漆野裕子：多様な対象に対応できる専門職を育成するカリキュラム - 保健師教育課程，聖泉看護学研究，12，71-74，2022.
- 3) Nishikawa Mariko, Higo Emiko, Nagai Sho, Okumura Shigeo, Sato Ayano, Hayashi

Saeko, Wakazono Naomi：実践的な看護としての国際的な保健と看護テキストマイニング分析による質的研究 Global Health and Nursing as Practical Nursing: A quality research with text mining analysis, 日本ヒューマンヘルスケア学会誌, 7 (1), 48.

<学会発表>

- 1) 磯邊厚子, 戸田美幸, 植村小夜子, 松永早苗：「スリランカ農園移民の歴史と健康生活－高齢者インタビューから」, 第 35 回日本国際保健医療学会東日本会, 1 頁, 4 月 2021
- 2) 磯邊厚子, 植村小夜子, 戸田美幸, 松永早苗：「スリランカ農園地域の保育所の子どもの歯の健康課題」, 第 35 回日本国際保健医療学会東日本会, 1 頁, 6 月 2021.
- 3) 磯邊厚子, 川嶋元子, 佐藤綾野：「在宅看護学内演習の充実を目指して－臨地に近い場面設定で学ぶ訪問マナー演習の授業案の作成」－第 3 回日本看護シュミレーションラーニング学会, 70 頁, 2 月 2022
- 4) Nishikawa Mariko, Higo Emiko, Nagai Sho, Okumura Shigeo, Sato Ayano, Hayashi Saeko, Wakazono Naomi：Global Health and Nursing as Practical Nursing: A quality research with text mining analysis, 日本ヒューマンヘルスケア学会第 4 回学術集会, 9 月 2021.

<助成金による研究活動>

- 1) 磯邊厚子, 戸田美幸, 松永早苗, 植村小夜子：スリランカ農園地域の働く母と子どもの自由－潜在能力アプローチの実践的研究, 基盤 B (課題番号 JP19H04372), 2019-2021.
- 2) 川嶋元子, 小野ミツ, 原田春美：中規模病院の外来看護師における在宅療養支援の看護実践能力自己評価尺度の開発 (課題番号 19K11127), 2019-2021.
- 3) 西山ゆかり, 木村知子, 川嶋元子, 安孫子尚子, 中島真由美, 流郷千幸, 小林菜穂子：学生から新人看護師への役割移行プロセスにおける社会人基礎力育成プログラム開発, 日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究 (C), 2021-2025 年度.
- 4) 佐藤綾野：HSP (Highly Sensitive Person) の気質と感情労働就業に関する文献検討, 聖泉大学学長裁量経費, 2021.

4. 地域貢献

領域全体：聖泉大学 知の拠点 COC+プロジェクト 近江楽座・聖泉版, 磯邊厚子, 川嶋元子, 佐藤綾野, 桶河華代, 西垣里志, 今井恵：「高齢者と看護学生の地域内交流」地域活性化プロジェクト 2021 11 月～2022 3 月

川嶋元子：日本看護協会 地域包括ケア推進のための外来における看護職の役割把握調査検討委員会 委員長, ヒューマンケア研究学会評議員

佐藤綾野：日本ヒューマンヘルスケア学会副事務局長, 評議員, 第 4 回学術集会実行委員, 第 5 回学術集会実行委員, 日本人間関係学会第 29 回全国大会実行委員, 関西地区会運営委員

2. 委員会活動報告

2-1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長: 西山ゆかり
- 2) 委員: 安孫子尚子、安田千寿、鈴木美佐、川嶋元子、漆野裕子、馬場好恵、篠田紀一郎、岩渕

2. 所掌事項(看護学部教務委員会規程)

1) 試験に関する業務

- (1) 定期試験日程調整 (2) オリエンテーション (3) 定期および再試験の依頼
- (4) 試験結果一覧作成 (5) 成績通知 (6) 進級判定資料作成 (7) 試験監督の調整

2) 学年暦の作成

3) 各ワーキンググループの役割(教務委員会内取り決め)

A: フレッシュゼミ、キャリア教育Ⅰに関すること

B: キャリア教育Ⅳ、履修要項、履修登録、時間割、試験日程、外部講師対応、遠隔授業・試験に関すること

C: 卒業研究、キャリア教育Ⅱ・Ⅲに関すること

* 各ワーキングが担当する内容報告により委員会で検討を行った。

3. 委員会活動

回数	年 月 日 (曜日)	主な議題、内容等 (毎回: 各ワーキング報告)
1	2021 年 4 月 12 日 (月)	1. 新年度各学年ガイダンスの振り返り 2. 委員会体制について 各ワーキング役割確認 3. キャリア教育のシラバスの最終担当者決定 4. 授業開始に向けて 1 年生の遠隔授業準備 (Zoom 5/10 に実施)
2	2021 年 6 月 14 日 (月)	1. 前期時間割 (案) の検討 2. 後期ガイダンス日程調整と各委員会との調整 3. キャリア教育Ⅲの外部講師の日程調整・対応 4. タクナルの新グループ案の検討
3	2021 年 7 月 5 日 (月)	1. 前期終了ガイダンスの担当の決定とガイダンス内容の検討 2. 仮進級 3 年生の特別試験日程の調整と科目責任者との実施計画についての調整 3. キャリア教育Ⅲの実習指導者や看護部への依頼 (内諾の確認) と公文書発行 4. 1 年生の前期試験オリエンテーションの実施について検討 5. キャリア教育Ⅳ: 卒業研究の発表の企画 (案) と日程調整 6. 卒業研究入門コースの日程調整
4	2021 年 8 月 10 日 (火)	1. 前期終了ガイダンスの振り返り 2. 前期試験の振り返りと追試験対象者の確認と時間割について 3. 再試験の日程確認 4. 成績低迷者 (前期 3 科目: F) の確認と今後についての情報共有 5. 後期時間割についての検討 6. フレッシュゼミの成績評価
5	2021 年 9 月 10 日 (金)	1. 後期時間割配信について 2. 再試験・特別試験の結果の報告と情報共有 3. 特別試験についての内規の検討 4. 休学中の学生の聴講制度についての確認 5. 卒業研究発表会の 3 年生の参加 (対面・遠隔) についての検討 6. コロナの行動レベル 5 に対応した時間割と教室の割り振りについて
6	2021 年 10 月 11 日 (月)	1. リアセックとの PROG 結果やタクナル運営について 2. 11 月から対面を増やすために後期時間割の見直し 3. 卒業研究発表会の企画・運営の振り返りと成績評価 4. キャリア教育Ⅳの卒業時の技術到達度に関する演習企画について 5. 3 年生の卒業ゼミ担当案についての検討
7	2021 年 11 月 11 日 (月)	1. 後期試験日程について 2. 次年度の教務委員会の予算について: 文献費と学会参加費 3. 卒業研究ゼミの決定と学生への配信
8	2021 年 12 月 22 日 (水)	1. 新カリキュラムの人間学部との合同科目についての検討 2. 8 期生の卒業研究ゼミの一部変更の報告 3. 後期試験日程と監督者案について検討 4. 新カリキュラムに伴う読み替え科目について (D・F 判定者の未履修科目) 5. 2021 年末で退職に伴って、次年度の科目責任者の変更について
9	2022 年 1 月 31 日 (月)	1. 後期試験・追試験・再試験、判定会議日程調整 2. 2022 年度の履修要項の見直し (新カリキュラムに伴う変更) 3. カリキュラムツリーの検討 4. 2022 年度の前後期の時間割案と進級判定会議の日程確認について 5. 新カリキュラムに伴うフレッシュゼミ・キャリア教育Ⅰのシラバス見直し 6. 2022 年度シラバスの AA 入力日程と依頼について

10	2022 年 2 月 21 日（月）	1. 2022 年度の履修要項の見直しと印刷について（AA でのシラバス一本化し、印刷なし） 2. 2022 年度時間割決定 3. 新学期のオリエンテーション担当者の決定と内容検討 4. PROG の日程調整（新 1 年生・4 年生） 5. シラバスチェックの結果報告
11	2022 年 3 月 22 日（火）	1. 4 月の教務委員会オリエンテーション（履修登録等）担当について 2. 年間活動報告および次年度の課題について 3. カリキュラム改正に伴う留年生 4 名の対応（現 1 年生）

4. 委員会総括

今年度は、COVID-19 感染に関する行動指針に則り、学生が不利益にならないように対面授業と遠隔授業とをとりいれ、ハイブリットでの授業に取り組んだ。後期からは、感染対策を徹底して対面授業が出来るように時間割と教室の調整を教務課と連携しタイムリーに進めることができた。昨年度は、フレッシュゼミ・キャリア教育Ⅰ～Ⅳのプログラムが完成し、今年度は教務委員会主導ではあるが、各学年担任が運営できるように移行を行った。またメンバーの交代に伴いワーキングの役割を見直し、より学生の教育の質向上を図るように努めた。

以下、各ワーキングについての主な振り返りを行った。

- 1) ワーキング A: 主に 1 年生を主としフレッシュゼミ、キャリア教育Ⅰを担当した。1 年生のタクナルを 1 年生の担任および教務委員全員で取り組んだ。プログラムの運営については特に問題なく遂行することができた。キャリア教育Ⅰに関しては、人間学部の地域共生論との合同科目であり、人間学部との調整を早い時期に行い役割分担を決めて進めていった。次年度からは、新カリキュラムスタートに伴い人間学部との合同科目としないことが決定され、ライフプランナー「ほんわかハート」への講師依頼は看護学部ではないことになった。看護学部教員による講義が 2 コマずつあり、教員のことを知る機会にもなり、将来のキャリア形成について学生たちの学びは深く、内容的には問題なかった。タクナルに関しては、リアセック担当者との会議をもち、15 コマの内容の検討を行い、次年度は学外オリエンテーション時の自己紹介に「ギャップの王様」を組み込み、レポートの書き方やプレゼンテーションの方法など、タクナルのプログラムにない、初年次教育の内容を組み込んでいくことにする。
- 2) ワーキング B: 主に、2 年生のキャリア教育Ⅳ、時間割、履修要項を担当した。時間割作成: COVID-19 感染に関する行動指針に則り時間割調整をタイムリーに行う必要があったが、2 年目であり講師との調整もスムーズに行えた。また昨年度に遠隔授業に対する学生への対応や遠隔試験マニュアルに則り進めることができた。定期試験に関しては、看護学部は対面を原則とし、感染対策を徹底して、対面での試験を実施した。遠隔試験の受験資格としては、大学に来ることで感染の恐れのあることの診断書の提出を求め、提出のあった学生に対しては学部長・教務委員長の面談を必要とすることなどを明文化したことで、遠隔試験での申し出はなかった。キャリア教育Ⅳに関しては、2 年目の運営であり、教務委員会と 4 年生担任、研究促進委員会が協働して、役割分担しながら運営を行った。3 年生の参加も、午前午後と人数制限をすることで、すべての学生が対面で参加ができ、卒業研究ゼミの決定に際しても問題なく振り分けができた。また、最終 15 コマでは、4 年間のキャリア教育で培った力について、学年目標の振り返りから自己の成長を確認したことで、自信をつけることができた。次年度も 4 年間のキャリア教育の振り返りをしていく。
- 3) ワーキング C: 主に、キャリア教育Ⅱ・Ⅲを担当した。本年度はインターンシップを取りやめて、ⅡとⅢとも社会人基礎力に必要な内容に変更した。キャリア教育Ⅱでは、レポート課題が多く、学生への返却をするにあたり添削に時間を要したため、次年度はもう少しテーマを絞り、広く物事を考えるのではなく 1 つのことをより深く考えて、そこから広げていけるような、方法論を学ぶ内容としていく。キャリア教育Ⅲの先輩看護師の講話では、講師の人数が多く、学生には負担が大きかったと思われるので、次年度は人数を減らし、講話後の考える時間を持てる時間配分を検討していく。

5. 次年度の課題

- 1) 教育の質の保証をしていくために、その見直しと一方向の授業にならないように、授業の進め方や学生の疑問に答えられる場を提供する、あるいは感染対策を行い対面授業を多くしていく。また発熱者に対する学修補償についてのフロー作成を行う。
- 2) 2022 年度、新カリキュラムが実施されるにあたり、旧カリと新カリキュラムの読み替えを見える化して、学生の不利益が起らないようにする。特に 130 単位から 124 単位への卒業要件が変更になるので、新カリの学生との履修方法が違うことなどの説明を、他委員会、教務課と連携しながら進めていく。
- 3) キャリア教育Ⅰ～Ⅳの科目担当を、次年からは、教務委員はコーディネーター役に回り、各学年の担任に移行をする。2022 年度からの新カリキュラムの時には、システム化し、教員の誰しもが担当できるようにする。
- 4) 新 1 年生が、対面・遠隔授業に対応できるように 4 月のオリエンテーション中に対応をし、大学生活がスタートできるように支援をしていく。

以上、委員会活動の 1 年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：平田美紀
- 2) 委員：安孫子尚子、小林菜穂子、森野美由紀、森島加奈子

2. 所掌事項

- 1) 学生委員会開催
- 2) 学年担任と学生指導・支援及びチューターとの連携
- 3) 長期休暇前の生活指導
- 4) 学生課との連携協力（①学生表彰関係 ②就職支援関係 ③学友会関係
④新入生オリエンテーション関係 ⑤奨学金関係
⑥クラブ関係 ⑦学生の生活・学習環境関係 ⑧学生便覧関係）
- 5) 万聖祭への参加協力関係
- 6) 卒業パーティー協力
- 7) 全学学生委員会との連携協力
- 8) 教育後援会への出席

3. 委員会活動

回	年 月 日 (曜日)	議題(テーマ)・内容	備考
1	2021 年 4 月 12 日 (火)	1. 年間スケジュール 2. 担当者・内容確認 3. 学生ガイダンス、オリエンテーションの振り返り 4. 学生課からの連絡（奨学金受給者への指導）	
2	2021 年 5 月 10 日 (火)	1. 各学年担任報告・学習支援について 2. 学生課より(就職について、採用日程、面接練習) 3. コロナワクチン接種について 4. 全学学生委員会報告	
3	2021 年 6 月 8 日 (火)	1. 全学学生委員会報告（コロナワクチン接種について、表彰） 2. 各学年担任報告・学習支援の報告 3. 学生課より(採用試験内定報告)	
4	2021 年 7 月 13 日 (火)	1. 全学学生委員会報告(環びわ、意見箱) 2. 各学年担任報告・学習支援 3. 学生課より(滋賀県修学資金、学生表彰) 4. 夏休み前の学生オリエンテーションについて	
5	2021 年 9 月 2 日 (木)	1. 万聖祭について 2. 学生課より(就職試験結果入力 manaba 活用) 3. 各学年担任報告・学習支援報告	
6	2021 年 10 月 5 日 (火)	1. 全学学生委員会報告(学習会、意見箱、学生表彰) 2. 学友会、万聖祭について 3. 各学年担任報告・学習支援報告 4. 予算執行について	
7	2021 年 11 月 4 日 (火)	1. 全学学生委員会報告(学友会費、万聖祭) 2. 各学年担任報告・学習支援報告 3. 万聖祭の振り返り 4. 3 年生への就職サポートについて 5. 卒業パーティーについて	
8	2021 年 12 月 3 日 (月)	1. 全学学生委員会報告(学友会、一言意見箱) 2. 3 年生へのサポートについて 3. 各学年担任報告・学習支援報告 4. 冬休み前の学生オリエンテーション 5. 卒業パーティー、卒業記念品について	

9	2022 年 1 月 14 日（金）	1. 全学学生委員会報告 2. 各学年担任報告・学習支援について 3. 学生課より(就職ガイドブック・学長表彰について) 4. 学友会活動（新年会）中止について 5. 卒業パーティー、記念品について	
10	2022 年 2 月 9 日（水）	1. 全学学生委員会報告(意見箱) 2. 学生課より(学生表彰について) 3. 各学年担任報告について 4. 卒業パーティーについて 5. 新入生学外オリエンテーションについて	
11	2022 年 3 月 4 日（金）	1. 全学学生委員会報告（意見箱、障がいのある学生への支援） 2. 新年度オリエンテーションについて 3. 卒業セレモニーについて 4. 各学年担任報告 5. 学生委員会総括	

4. 委員会総括

1) 学生把握チューターとの連携について

コロナに関する行動指針のレベルにより対面とオンラインを併用した学生生活が続いた。学生面談は、チューターにより前期、後期の 2 回ずつの実施を依頼した。面談内容は、遠隔講義の状況、健康面、アルバイト状況、進路、奨学金などとした。面談記録を前年度から引き続き共有フォルダへ入力し担任と情報共有できるようにした。しかし、面談調整ができない学生が多く担任が把握するのに時間を要した。さらに、今年度は学修支援として課題の取り組みが困難な学生や仮進級者に対してのサポートとして、担任が学習会を設定し開催した。しかし、対象学生は連絡がつかないことや無断欠席など参加者は少なかった。担任が学生生活の指導に加えて学修支援を担ったことで学生との距離が生じたのではないかと考える。今後、学生が相談しやすいよう担任とチューターの役割と連携を明確にすることが今後の課題である。

2) 進路就職関係について

コロナ禍のため、インターンシップ等の情報収集や参加など縮小傾向であったが、ゼミや学生課のサポートにより早い時期から就職活動が実施された。助産師コース進学希望者以外は概ね就職が内定していた。3 月に最終の学生の就職が決定した。

3) 学友会について

万聖祭の開催がコロナ禍のため縮小または中止を想定して取り組まなければならなかった。学友会活動は、オンライン対応をしながら進めた。結果、万聖祭は半日とし、対面とオンラインを合わせて開催した。両学部で協力し無事に終わることができた。新年会としてゲームを企画していたが、入構禁止となり中止した。学友会メンバーは 1 年生が数名のため、メンバーを勧誘し継続できる体制が今後の課題である。

4) 新入生オリエンテーションについて

コロナ禍のため、学外オリエンテーションとして彦根を知る目的で彦根城の散策を実施した。前半、後半の 2 つに分けてグループで行動し、写真撮影したものをメール添付し送信することを課題として取り組んだ。また、フォトコンテストとして優秀なグループには前期最後に表彰式を行った。

5) 卒業パーティーについて

会場が今年度より彦根文化プラザになり、コロナ禍で飲食を伴う行事が不可能であるため、卒業式後に学部ごとにわかれてセレモニーを行った。セレモニーは 1 時間とし、写真撮影は分散できるように学生委員会で誘導した。次年度も、同会場でセレモニーを行うことは問題ないとする。

学生委員会としての所掌事項について自己点検を行った。一部コロナ禍において実施できていない部分もあり、上記内容について次年度課題としてコロナ禍においての検討が必要となる。

委員会活動の 1 年間の活動を振り返り所掌事項とすり合わせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-3 国家試験対策委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長： 大久保仁司
- 2) 委 員： 鈴木美佐、井之口文月、森野美由紀、戸田美幸、大塩佳名子、佐藤綾野、佐伯興平、
後藤直樹、村山仁衣菜、（事務局）山川直美

2. 所掌事項

- 1) 国家試験対策に関すること
- 2) 看護師国家試験に関すること
- 3) 保健師国家試験に関すること

3. 委員会活動

回数	年 月 日 (曜日)	議題、内容等
1	2021 年 4 月 14 日 (水)	・ 国試対策委員会の役割について ・ 2021 年度国試対策年間計画について ・ 強化対象者の選出と支援について ・ 低学年の対策について ・ 保健師対策について
2	2021 年 5 月 7 日 (金)	・ 国家試験対策（専門基礎編） ・ 学生の主体的学習支援の方略について ・ 東京アカデミー夏期講習の案内、でた問の購入方法について ・ 献本・購入図書の購入と保管方法について ・ 低学年対策について
3	2021 年 6 月 14 日 (月)	・ 4 年生向け学内強化対策について ・ 図書選定について ・ 保健師対策について
4	2021 年 7 月 7 日 (水)	・ 4 年生国家試験対策について ・ 図書選定について ・ 低学年対策について（模擬試験を含む）
5	2021 年 8 月 2 日 (月)	・ 4 年生国家試験対策 ・ 模擬試験の自己採点について ・ 東京アカデミー講習会運営について ・ 低学年対策について
6	2021 年 8 月 20 日 (金)	・ 4 年生国家試験対策について ・ 低学年の国試対策について
7	2021 年 9 月 21 日 (火)	・ 4 年生国家試験対策について ・ 卒業生の対策について ・ 低学年の学習課題（3 年生）の対応について
8	2021 年 10 月 7 日 (木)	・ 東京アカデミー必修模試 自己採点結果について ・ 東京アカデミー対策講座について ・ 保健師対策について ・ 低学年対策について
9	2021 年 11 月 11 日 (木)	・ 東京アカデミー 第二回模擬試験 自己採点結果について ・ 冬季強化対策対象者、進め方について ・ 模擬試験追加について ・ 保健師対策について ・ 次年度予算・計画について ・ 低学年対策について

10	2021 年 12 月 9 日 (水)	・メディカコンクール採点結果について ・強化対策対象者の学習支援について ・多賀大社参拝について ・保健師対策について・受験票渡し・国試自己採点について
11	2022 年 3 月 1 日 (火)	・2022 年度年間スケジュールについて ・3 月 25 日 14 時の日程について
12	2022 年 3 月 25 日 (金)	・合格発表の確認と対応

4. 委員会総括

1) 国家試験サポートについて

4 月最初に国家試験ガイダンスを実施し、国試の概要と本学の対策および費用について説明した。本年度は、コロナ禍の影響を受けて保護者向けの説明会は実施せず、ガイダンスの模様を DVD に収録し、文書とともに配布して支援をお願いした。東京アカデミーによる国試対策 4 年目であり東京アカデミーの低学年者向け講座、夏季・冬季講習の受講をするよう伝えた。9 月からの東京アカデミー対策講座は昨年に引き続き松本講師に一本化でき、学生の反応に応じた講義構成だったので、学生からも好評であった。

保健師対策は地域看護領域が主体となり対策講座を行った。ダブル受験の学生へは地域領域から面接を行い全員受験することが確認された。

2) 模擬試験について

看護師国家試験は、東京アカデミー（必修、第 1～3 回）、メディカ（第 3 回）を行った。また、希望者に対して、なすもし（医学書院）、必修模試（テコム）を追加で実施した。

保健師国家試験対策については、ほけもし（3 回）を行った。

3) 強化対策について

学内強化対策対象者は、3 年前期までの成績、課題への取り組みと、第 109 回国家試験解答結果を参考に選定した。コロナ禍の影響を受けて、学内での支援は困難であったため、ゼミと連携し、自宅学習を進めるようにした。また、でた問の基礎問題について、担当教員が問題の解説を行い、マナバでオンデマンド対応した。さらにゼミと情報共有し連携を図った。夏までの課題として、過去問を 3 周解くように計画したが、達成にばらつきがみられた。強化対象者については、それぞれの模擬試験毎に対象者を選定し、2 回程度学生面談を行い、その内容をゼミと共有した。1 月以降も学習環境を調整し、さらに各領域毎に学習支援を行ったが、約半数の学生が大学で学習した。

4) 低学年対策について

低学年への国試対策として、3 年生には 5 月に東京アカデミーの低学年模試を実施した。領域実習前にはそれぞれの領域から国試問題の課題を提示した。1～2 年生にはコロナの影響を受けて、マナバでの課題として対応した。

5. 次年度の課題

1) ～ 3) の対策を実施した。結果、今年度の現役生の合格率は、看護師 98.7%、保健師 90.0%であった。昨年度より、合格率は向上したが全員合格には至っていない。昨年度より充実した支援を行う一方で、学生の主体性を引き出し、皆で全員合格を目指すという環境づくりをし、引き続き全員合格を目指していくことを課題として確認した。

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-4 実習調整委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：中島真由美
- 2) 委 員：磯邊厚子、間文彦、森野美由紀、村井博子、花原恭子、後藤則子、高島留美

2. 所掌事項

- 1) 委員会運営に関する業務
各ワーキングに関する業務
 - ・ワーキング A：臨地実習要項の調整，実習施設管理者・指導者会議
 - ・ワーキング B：実習ローテーション表作成，学校協議会との調整
 - ・ワーキング C：地域統合実習要項及び報告書作成，予算，インシデント報告
- 2) 実習施設管理者・指導者会議に関する業務
コロナ禍で中止となった．各領域の実習到達度及び当該年度実習要項を全施設へ送付

3. 委員会活動

回	年 月 日(曜日)	議題(テーマ)・内容	備考 出席者人数
1	令和 3 年 4 月 9 日(金)	年間活動計画，定例委員会の決定と議事録書記担当，実習施設管理者・指導者会議の中止と実習到達度と課題の様式について、地域統合実習について、2021 度実習ローテーション表の確認	8 名
2	令和 3 年 5 月 13 日(木)	実習到達度と課題について、2021 年度・2022 年度実習ローテーション表(案)の確認，地域統合実習施設確認と報告書の様式検討，令和 3 年度臨地実習オリエンテーションの日程検討，予算報告	4 名
3	令和 3 年 6 月 2 日(水)	実習ローテーション表について、実習受け入れ機関の新型コロナウイルスによる受入れ条件等の確認、地域統合実習報告書の様式について、予算報告	7 名
	令和 3 年 6 月 9 日(水)	医療機関等への実習要項一式と実習到達度と課題の発送準備	
4	令和 3 年 7 月 5 日(月)	実習オリエンテーションについて、学生名入りの 2021 年度実習ローテーション表について、2022 年度実習ローテーション表について、地域統合実習の評価表等の様式の確認、予算報告	8 名
5	令和 3 年 9 月 6 日(月)	3 年生臨地実習オリエンテーションについて、2021 年度（令和 3 年度）実習ローテーション表について、地域統合実習報告書の提出状況、医療機関からの新型コロナウイルスによる実習受け入れに関する連絡状況確認	8 名
	令和 3 年 9 月 24 日(金)	3 年生への臨地実習オリエンテーションの開催	
6	令和 3 年 10 月 4 日(月)	9 月の臨地実習オリエンテーションの振り返り，共通要項・各領域実習要項の準備予定について、地域統合実習報告書の様式のばらつきについて、各領域の臨地実習の実施状況の共有	7 名

7	令和 3 年 11 月 1 日(月)	2022 年聖泉大学実習施設管理者・指導者会について、2022 年度ローテーション表について、地域統合実習報告書印刷状況について、インシデント報告について、予算案について、臨地実習の状況の共有	6 名
8	令和 3 年 12 月 3 日(金)	2022 年度聖泉大学実習施設管理者・指導者会議(案)について、2022 年度ローテーション表(案)について、2022 年度統合実習要項(案)について、物品購入について、インシデント報告について、実習施設依頼文書発送準備についての確認	8 名
9	令和 4 年 1 月 6 日(木)	臨地実習共通要項について、2022 年度聖泉大学実習施設管理者・指導者会議(案)について、地域統合実習要項(案)について、実習のインシデント報告、臨地実習の状況の共有	8 名
10	令和 4 年 2 月 3 日(木)	臨地実習共通要項について、2022 年度聖泉大学実習施設管理者・指導者会議(案)について、インシデント報告について、臨地実習状況の共有、学校案内パンフレットの実習に関するページの校正	8 名

4. 委員会総括

各ワーキングの活動により運営はスムーズに進んだ。実習ローテーションについては、新カリキュラムによる実習スケジュールの変更に伴う他施設との重複がみられ、該当領域で対応がされた。共通要項は新カリキュラムへの対応と、新型コロナウイルス（COVID-19）のワクチン接種歴を含めた健康管理表の修正などをおこなった。地域統合実習報告書の様式のばらつきに対しては、次年度実習要項における様式の検討を行った。

新型コロナウイルス（COVID-19）により実習の受入れに影響が出る中、各領域では実習内容の変更等の対応がなされていた。昨年から続く感染状況の遷延の中、学生に感染対策の認識の甘さが見られ、指導が繰り返し必要であった。また、臨地での実習中止に伴う実習施設へのバスの中止連絡などに留意が必要であった。

今後の課題

- ・令和 4 年度より始まる新カリキュラムへの対応として、実習スケジュールの確認、臨地実習指導者会での説明などが必要となる。
- ・2 年にわたり中止となっていた実習施設管理者・指導者会を次年度は実施するにあたって、当日の進行内容の詳細を遠隔での実施の可能性も含めて検討する。
- ・感染状況の遷延に伴う、学生の感染対策への注意喚起を繰り返す必要性がある。

以上、上記の問題点を確認し、次年度の実習調整委員会の役割について取り組む課題として確認した。

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-5 FD委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：磯邊厚子
- 2) 委員：平田美紀、大久保仁司、川嶋元子、川端愛野

2. 所掌事項

- 1) 委員会運営に関する業務
- 2) FD 委員会の本年度の計画・実施

3 委員会活動

(委員会日程)

回	年/月/日（曜日）	議題(テーマ)・内容	備考 出席者人数
1	2021 年 4 月 14 日 (水)	本年度の活動：学部中心とする 学習会を定期的に実施	4 名
2	2021 年 5 月 11 日 (火)	公開授業の実施計画と評価表の作成 FD 研修会（学部）：外部講師の招聘計画	4 名
3	2021 年 6 月 15 日 (火)	6 月に外部講師の招聘 公開授業の進捗状況及び学習会実施計画	5 名
4	2021 年 7 月 14 日 (火)	前期公開授業の進捗状況、学習会企画 FD 研修会：外部講師招聘（津波古澄子氏）	4 名
5	2021 年 8 月 23 日 (火)	公開授業企画（1 領域 1 回必須実施） 学習会実施計画（5 回：10 月～2 月）	5 名
6	2021 年 9 月 13 日 (月)	公開授業（後期）及び学習会企画の確認 FD 研修会（研究科）：外部講師の招聘計画	4 名
7	2021 年 10 月 8 日 (金)	学習会計画、公開授業の進捗状況 FD 研修会：外部講師招聘（津波古澄子氏）	4 名
8	2021 年 11 月 4 日 (木)	後期公開授業の確認 学習会の進捗状況	3 名
9	2021 年 12 月 23 日 (木)	後期公開授業の確認 学習会（学生指導）への要望の確認	4 名
10	2022 年 3 月 29 日 (火)	2021 年度の活動報告と総括 今後の課題	3 名

FD 委員会は、全学 FD 委員会とは別に学部中心の委員会とする。本年度は教員の質向上、教育力アップをめざし、各領域で公開授業、FD 委員が担当し学習会、外部講師招聘を定期的に行った。公開授業後の参加者アンケートは授業実施者へフィードバックした。

公開授業；

領域及び月日	講義数	参加者	授業アンケート提出数
小児看護学 5/28	1	7	7
在宅看護学 6/8	2	6	6
基礎看護学 5/31-6/21	10	5	4
成人看護学 6/10	1	5	5
母性看護学 10/28	1	6	6
地域看護学 10/28	1	7	7
精神看護学 10/29	1	3	3
老年看護学 12/15	1	11	10

学習会；

月	内容	担当	参加者
10 月	授業の作り方①	平田	19
11 月	授業の作り方②	磯邊	15
12 月	授業の方法と教材	大久保	14
1 月	臨地実習の計画と指導	川端	6
3 月	教育評価の基本と方法	川嶋	14

＊学習会の参加者アンケート結果は、委員会ファイルに保管

講師招聘；

- ・令和 3 年 6 月 23 日（水）：天使大学大学院教授 津波古澄子氏「思考力を育てる看護教育」
- ・令和 3 年 9 月 22 日（水）：同上「ロイ理論を活用した中範囲理論の成立ちを考察する」

4. 委員会総括

公開授業は、コロナ禍のため参加者を制限、少人数制となったが、アンケート（授業評価）は、今後の授業改善・向上に繋がるため、実施者及び領域へフィードバックした。

学習会は、予め全教員へアンケートを行い、希望の多かった教授法～評価を 5 回に分け、委員が教材を担当。とくに助手・助教の教員にとって、授業の基本的認識や学生指導の難しさなどを共有、意見交換の機会となり、個々の教育力向上のみならず領域の研鑽に繋がった。

講師招聘は、思考力を育て、自ら行動できる学生の育成に向けた内容で展開、好評であった。研究科の学生を含めたロイ理論の活用の講演は、看護教育方法の新たな知見を学んだ。

今後の課題

学部カリキュラム、教育理念、目標から個人及び組織が大学の方向性などを含め議論する機会があれば、組織的・継続的な教育改革・発展に繋がる。活動をさらに発展させていく。

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い委員会として機能していることを確認した。

2-6 学術誌編集委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：安田千寿
- 2) 委員：小林菜穂子、前田寿美、戸田美幸、田中里佳

2. 所掌事項

- 1) 学術誌の編集と出版
- 2) その他、学術誌等に関すること

3. 委員会活動

回	年月日（曜日）	議題(テーマ)・内容	備考
1	2021 年 4 月 20 日(火)	1. 年間活動計画の確認と検討 2. 学術論文申請書の提出方法と期限の設定 3. 委員会活動の役割分担 4. 英文校正の担当依頼について 5. ホームページへの掲載準備	
2	2021 年 8 月 6 日(金)	1. 学術論文申請状況の確認 2. 申請論文の委員担当決定 3. 論文提出チェックシートの見直し	
3	2021 年 9 月 22 日(水)	1. 投稿論文の査読者の決定 2. 論文に対するイニシャルチェック 3. 訂正が必要な論文の返却の手続き	
4	2021 年 9 月 30 日(木)	1. 訂正があった論文の内容確認 2. 執筆者への論文受理通知の発送 3. 査読者への論文発送作業と期限の決定	
5	2021 年 10 月 29 日(金)	1. 査読者からの論文返却の確認 2. 執筆者への論文返却作業	
6	2021 年 11 月 30 日(火)	1. 査読後修正論文の受理と確認 2. 再査読のための査読者への発送作業 3. 英文校正の依頼	
7	2021 年 12 月 24 日(金)	1. 査読者からの論文返却（再査読）の確認 2. 執筆者への原稿返却作業と修正提出の依頼 3. 出版社への見積り依頼 4. 投稿規程・執筆要領の見直し	
8	2022 年 1 月 24 日（月）	1. 執筆者からの論文提出確認（最終版） 2. 掲載順の決定 3. 査読者への掲載種別の報告とお礼 4. 印刷業者との打合せと校正作業 5. 投稿規程・執筆要領の見直し	実習期間により 学内で対応できる 委員を招集し 活動を継続した
9	2022 年 2 月 10 日（木）	1. 論文校正 1 回目：執筆者へ論文返却 2. 投稿規程・執筆要領の見直し	
10	2022 年 2 月 22 日（火）	1. 論文校正の確認と印刷業者への返却作業 2. 製本の表紙等校正と確認	
11	2022 年 3 月 7 日（月）	1. 論文校正 2 回目：執筆者へ論文返却	
12	2022 年 3 月 11 日（金）	1. 校正 2 回目の原稿確認 2. 印刷業者へ原稿の引き渡し作業	
13	2022 年 3 月 28 日（月）	1. 製本完成 最終原稿の引き渡し	

4. 委員会総括

4 月の学科会議およびホームページ上で年間スケジュールを掲載し、各締切り日のご理解と余裕のある投稿準備を求めた。

本年度の申請数は 11 件、学外所属の筆頭執筆者 1 件、10 件が本学教員であった。その内ホームページ上からの申請が間に合わず手渡しでの申請が 1 件あり受理した。論文の投稿は受理申請から 2 件減って 9 件となった。いずれも原稿が間に合わないとの理由であった。

委員会ではこれまで同様に、原著と研究ノートの種別に対し外部の査読者を選定し依頼した。査読結果が 2 名の審査委員で異なる結果があり、これを受けた執筆者が論文種別を下位に変更して 2 度目の査読に臨むべきかと相談があった。委員会で検討した結果、まずは希望種別で掲載されるよう前向きに修正を行い、その結果を待つよう執筆者へは真摯な回答をお願いし励ましとした。結果、執筆者の当初希望する種別での掲載ができた。また、同じく査読結果が 2 名で異なったことを受け、論文種別を上位に変更する希望が 2 件あった。この件に関して、1 度目の査読の結果、審査結果が分かれた場合は速やかに第 3 者の査読者を依頼することが望ましかったと思われる。時期が遅れたが第 3 番目の査読者を依頼し、その結果を受け種別の確定を行った。査読者への論文種別の説明を的確に行うことも含めて、次年度の改善点となった。

英文校正において、日本語の修正を終えた時点で英文のネイティブチェックを受ける仕組みをチェックシートで執筆者へ周知した。しかしながら査読者に対しての周知ができておらず多少の混乱があった。査読結果に関わることになるため、次年度はどの時期に英文抄録を提出するのかを年間スケジュールに明記する。また、英文校正の精度を上げるために、ネイティブチェックを受ける際の相談および、最終確認を本学の竹村先生に依頼した。その結果、論文全体の流れに沿うよう本文すべてに目を通されその上で英文抄録の違和感をとっていただけたこと他、日本の慣習や看護に適した言葉を調べつくしてのチェックをしていただき、日本語を知らない人が読んでも看護を理解できる質の高い英文抄録が出来上がっている。

抄録が必要な種別、英文抄録が必要な種別において執筆要領に明記されていることと、過去これまでの現状が異なっていたため、執筆要領の改訂を行った。また、論文種別による枚数の制限において、他学会や他大学の紀要を調べた結果、「その他」の種別において本学よりも枚数が多い傾向であることが分かった。その他の種別においては、これまで制限内に収めることが難しいという声もあり、投稿規程の改定を行った。次年度 4 月より改訂版の執行開始となる。改訂版は 11 巻に掲載するようにした。ホームページ上でも改訂版を掲載し、情報の周知をはかっていく。

査読者及び校正者・執筆者、その他多くの先生方に協力を依頼し、委員会内で原稿の整理、調整を行った。しかし 12 月以降の活動は委員長以外は助産別科の 1 名と、ほぼ 2 名での運営となったことが残念であった。実習の調整を領域ではかり、委員会活動が滞りなく進行できるような工夫が必要である。また委員会内に執筆者がおり、査読者の調整などに参加することができず、委員長の他、助教 2 名での運営となった。そのため査読者を探し毎回の査読依頼をする作業に苦勞した。どうにか年次計画通りの委員会活動となり、年内の学術誌発行に至ったことは最大の成果であった。このことから委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-7 広報委員会

1. 構成メンバー 委員長：小林菜穂子

委員：間文彦、西山ゆかり、大久保仁司、中村美由紀、村井博子、大塩佳名子、
亀岡文孝、吉田猛、宮川華、今宿團 (敬称略)

2. 所署事項

- 1) 看護学部の広報活動に関する活動における各部局との連絡調整に関すること
- 2) 高校訪問、オープンキャンパス等の計画、実施に関すること
- 3) ホームページの企画・記事記載に関すること
- 4) 高大連携事業の運営に関すること

3. 委員会活動

	日 時	主 な 協 議 事 項
第 1 回	2021 年 4 月 5 日	1. オープンキャンパスの日程（年間と 6 月） 2. 入学時アンケート 3. HP 等掲載年間計画 4. 4 月の高大連携（八幡高校） その他：2021 年度パンフレット進捗報告、委員会年間スケジュール、規定の確認、マイナビゼミ紹介、奨学金チラシ等
第 2 回	2021 年 5 月 10 日	1. 6 月のオープンキャンパス、QR コードによる学生スタッフ募集 2. 新入生のアンケート結果 3. 4 月高大連携（八幡学校）のアンケート 4. 進学説明会について、県内高校訪問について その他：受験生向け WEB コンテンツの動画作成など
第 3 回	2021 年 6 月 9 日	1. オープンキャンパスでのコロナ対応、運営について（総合型選抜希望者の個別相談参加表についてなど） 2. FM 彦根収録依頼 3. ホームページ・フェイスブック掲載状況 4. 水口高校の上級学校就学体験の依頼 その他：看護学部ガイダンス・模擬授業分担表など
第 4 回	2021 年 7 月 1 日	1. 台風などの天候不良に伴う OC の対応について 2. 7 月のオープンキャンパス 3. 学生広報委員会活動報告 4. 8 月の八幡高等学校との高大連携について 5. 8/7、8/8 オープンキャンパス DX のスケジュールについて その他：毎日新聞「看護の日」小枠広告掲出案、看護学部 Q&A
第 5 回	2021 年 8 月 3 日	1. 8 月 8 日、9 日のオープンキャンパス 2 部制の確認 2. 産経新聞広告の報告 3. 8 月 25 日、8 月 27 日八幡高校高大連携講座について その他：9.10 月の入試対策講座について、フォトコンテスト開催の企画案
第 6 回	2021 年 9 月 3 日	1. オープンキャンパス運営評価 2. 大学パンフレット学生案の確認 3. 八幡高等学校の後半の高大連携講座について 4. 8 月 26 日の八幡高校高大連携講座アンケート結果 5. 7 月高校訪問の結果報告 その他：びわ湖放送、エフエム彦根の大学 CM など
第 7 回	2021 年 10 月 6 日	1. 次年度パンフレットについて（今年度変更点） 2. 八幡高校との高大連携講座について 3. 高校内ガイダンス・模擬授業等の進捗状況について 4. フォトコンテストワーキングからの報告 など

第 8 回	2021 年 11 月 5 日	1. 次年度 3 月のオープンキャンパスについて 2. 八幡高校との高大連携講座の調整（12 月分） 3. 大学パンフレットの内容調整 4. 3 月 23 日 私立 3 高等学校連携講座について その他：次年度予算など
第 9 回	2021 年 12 月 10 日	1. 3 月開催予オープンキャンパスについて 2. 大学パンフレットの進捗 3. HP, Facebook 記事の進捗状況 4. 12 月の八幡高校との高大連携講座について 5. 3 月の私学 4 校への講座（3 校から 4 校へ） その他：水口高等学校「上級学校修学体験」スケジュールなど
第 10 回	2022 年 1 月 7 日	1. 全学広報委員会から次年度 OC の方向性 2. 3 月 27 日オープンキャンパスについて 3. 学生広報委員会報告（チラシ作成） 4. 大学パンフレットの進捗状況報告 5. 八幡高校 12 月のアンケート 6. 私立 4 高等学校連携講座について など
第 11 回	2022 年 2 月 9 日	1. パンフレットの進捗と内容確認 2. 3/27 オープンキャンパス 担当者の動きについて 3. 2022 年度オープンキャンパス 年間スケジュールについて 4. 学生広報チラシ作成について 5. 私学 4 校スケジュール案 その他：広報委員会規定の一部改正（案） など
第 12 回	2022 年 3 月 11 日	1. 3 月のオープンキャンパスについて 2. 大学パンフレット最終確認（納期 25 日予定） 3. 学生作成のチラシ（2 案） 4. 4 月入学時のアンケートについて 5. 私学 4 校 高大連携について 6. 2022 年度高大連携講座予定・内容の報告 その他：2021 年度の進学説明会実績報告など

4. 委員会総括

今年度は、前年度の課題を受け、新型コロナウイルス感染症対策をしながら、オープンキャンパスの運営を行い、全予定を実施できた。また、入試変更に伴う入試相談表の対応など、入試対策委員会とも連携し運営した。オープンキャンパスの参加人数としても一昨年度ベースに回復した。（※学校型推薦枠を受験するにあたり入試相談 2 回必要の影響もあり）

八幡高等学校との高大連携講座については、半日企画に変更するなどはあったが、予定内容は実施し、次年度も継続の方向性である。3 月末の私学 3 校は、今年度からは 4 校となった。次年度からは今後広報委員会が主体となり企画運営を行うこととなるため、課題分析を行いながら、企画運営していく。学生広報委員会は、今年度はチラシ作成に携わってもらったが、大学方針での今年度の課題とされているように、今後はより学生が、定期的に発信できるような環境を整えていく。それと合わせホームページや Facebook の記事のチェックのあり方も見直していく。（その他、各ワーキングの委員会活動の一年間の活動報告書も参照のこと）

また、全学広報委員会とも連動するが、今年度は、新聞広告など臨時の広報活動の依頼について対応した。タイトなスケジュールとなることもあったので、進めていく場合は、この点を課題としていく。最後に委員会規定の見直しを今年度行ったので、次年度 4 月より施行する。

以上、委員会活動の 1 年間の活動を振り返り、内部質保障のための自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-8 キャリアアップセンター委員会・研究促進

2-8-1 キャリアアップセンター委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：流郷 千幸
- 2) 委 員：鈴木 美佐 川嶋 元子 井之口 文月 後藤 則子 川橋 けい子 篠田 紀一郎

2. 所掌事項

1) キャリアアップセンター

①講座ビギナーコース・アドバンスコースに関する事項

②卒業生研修会に関する事項

3. 委員会活動

回数	年 月 日	議題、内容等	備考
1	令和3年4月28日(水) 16:00～17:30	1. キャリアアップ委員会の役割分担・活動計画について 2. ビギナーコース、アドバンスコース講座の申込状況 3. 卒業生研修会講師決定依頼文発送	
2	令和3年5月21日(水) 9:30～10:30	1. ビギナーコース（第1回）役割・タイムスケジュール・個人情報の使用にかかる承諾・アンケート用紙について 2. 卒業生研修会、役割分担調整について	
3	令和3年5月28日(金) 16:20～17:10	ビギナーコース第1回開催 （9:15～16:00） 1. 講座の振り返り 2. 第2回の役割分担、必要物品の購入手配等	参加者 22名
4	令和3年6月17日(木) 10:40～12:10	1. 第1回講座のアンケート結果報告 2. 第2回講座のタイムスケジュール 3. ビギナーコース（第2回）の直前・当日準備について 講座開催中の委員配置 4. 卒業生研修会案内文郵送について	
5	令和3年6月25日(金) 16:20～17:10	ビギナーコース第2回開催 （9:30～16:00） 1. 第2回講座の振り返り 2. 第3回講座のタイムスケジュールについて 3. 卒業生研修会参加者の応募状況と呼びかけについて	参加者 21名
6	令和3年7月28日(水) 15:00～16:00	1. 第3回講座の直前・当日準備について 2. 個別研究サポートの領域配分、教員への依頼について	
7	令和3年7月30日(金) 16:30～17:30	ビギナーコース第3回開催 （9:30～16:00） 1. キャリアアップ講座の振り返り 2. 個別研究サポートまでの役割分担、必要物品の購入手配 3. 卒業生研修会の役割分担について	参加者 19名

8	令和3年8月26日(木) 17:00～17:30	アドバンスコース開催 (9:30～16:00) 1. 講座の振り返り 2. 令和3年度活動報告書作成の役割分担の確認	
9	令和3年8月27日(金) 13:00～13:45	ビギナーコース第4回個別研究サポート開催 (9:30～16:00) 1. 個別研究サポートの振り返り 2. アドバンスコースの役割分担、物品の購入手配等	参加者 20名
10	令和3年11月13日(木) 15:30～16:00	卒業生研修会開催 (12:00～15:30) 1. 卒業生研修会の振り返り	参加者 14名
11	令和4年2月24日(水) 14:00～15:00	1. 令和3年度 活動報告書の内容確認 2. 令和4年度キャリアアップ講座申し込み方法について 3. 令和4年度キャリアアップ講座開催日の検討 4. キャリアアップ講座、卒業生研修会の内容の検討	
12	令和4年3月15日(火) 15:00～16:00	1. 令和4年度 キャリアアップ講座案内の発送	

4. 委員会総括

ビギナーコース、アドバンスコースともに参加者のアンケート結果は好評価であった。第4回の研究サポートを各教員によるグループでの指導形式も参加者の満足度を高めた。コロナ禍であったため、アクリル版のパーテーションを使用した。各グループの声が重なり聞こえにくく、急遽、教室を分けて進行した。次年度は教室の設定も課題となった。

「卒業生研修会」は、学祭に合わせて開催することとし、テーマを「看護師のメンタルヘルス」とした。コロナ禍であることから参加者は少なかったが、参加者からは良い評価を得た。

委員会活動の1年間の活動を振り返り所掌事項とすり合わせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-8 キャリアアップセンター委員会・研究促進

2-8-2 研究促進

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：流郷千幸
- 2) 委員：鈴木美佐，川嶋元子，井之口文月，後藤則子，川橋けい子，篠田紀一郎
研究促進委員会（キャリアアップセンター兼務）

2. 所掌事項

- 1) 2021 年度「学長裁量経費」看護学部研究助成費の募集と選考準備
- 2) 2021 年度 科学研究費獲得のための学習会
- 3) 2020 年度「学長裁量経費」看護学部研究助成費報告会（2021 年度聖泉大学看護学部卒業研究発表会で教務委員会と合同）の開催

3. 委員会活動

回	月日	議題・内容等
1	4 月 28 日	1. 2021 年度学長裁量経費の応募者について 応募者は 6 名であり、5 月教授懇談会で対象者と金額を検討し、教授会で決定することが報告された。
2	5 月 21 日	1. 2021 年度 委員会活動計画について 1) 2021 年度看護学部研究助成費に関する年間計画について 2) 2020 年度看護学部研究助成費報告会（2021 年度聖泉大学看護学部卒業研究発表会で教務委員会と合同）の開催について 3) 科学研究費獲得のための学習会の開催について 2. 委員会の役割分担について 3. 「学長裁量経費」採択の結果の報告 2021 年度の採択者は 6 名となった。
3	7 月 28 日	1. 科学研究費獲得のための学習会実施について 1) チラシ・配布資料・実施場所の確認 2) 役割分担について 3) 実施後のアンケートについて 4) 当日のタイムスケジュールと役割分担について 2. 2020 年度「学長裁量経費」看護学部研究助成費報告会（2021 年度聖泉大学看護学部卒業研究発表会で教務委員会と合同）の開催について 1) 開催日時：9 月 25 日 2) 発表者への依頼（委員長）
4	8 月 日	2021 年度研究促進委員会主催科学研究費獲得のための学習会の開催 1) 科研費の申請書の書き方（グループワークを含む） 講師：西山ゆかり教授 鈴木美佐准教授 2) 開催時間：13:00～15:30 場所：本館第 1・2 会議室 3) 参加者：看護学部教員、助産別科教員の合計 27 名

5	9 月 25 日	2020 年度「学長裁量経費」看護学部研究助成費報告会（2021 年度聖泉大学看護学部卒業研究発表会で教務委員会と合同）の実施
6	3 月 15 日	2022 年度 学長裁量経費助成費の応募について（3 月教授会で承認）

4. 委員会総括

2021 年度は、学長裁量経費の研究助成費の応募件数が 6 名で全ての応募者が採択された。

教務委員会と合同で行った聖泉大学看護学部卒業研究発表会で 5 名の採択者の報告会を実施した。研究計画書の発表を行った 4 年生の学生が、教員の研究報告を聞くことで研究実施後の結果や考察について知ることができ、学びを深めることができた。今後も卒業研究発表会に合わせて報告会を実施していく。また、科学研究費獲得のための学習会を企画し実施した。実施後のアンケートでは、「グループワークが刺激になり参考になった」、「今まで応募したことはないが研究計画書を書いてみようと思った」など科学研究費申請への意欲を高めることができた。

委員会活動の 1 年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2021 年度
聖泉大学人間学部
年次報告書

学部教員・委員会

学部教員活動

(2021 年 4 月～2022 年 3 月)

(以下、学部のメンバーの氏名は下線で示してある)

1. 教育活動

唐楽寧 教授

授業担当科目

前期：日本語 A、上級日本語総合 A、実用中国語 A（週 2）、会計実務、プロジェクト C、専門演習 C

後期：日本語 B、上級日本語総合 B、経済学、プロジェクト D、専門演習 D、研究生研究指導（週 2）

通年科目：ジョブメソッド、卒業研究 I II 副査

李艶 教授

担当科目

前期

「基礎ゼミ C」「実用中国語 A」「産業・組織心理学」「リスク・危機管理心理学」「専門演習 A」「専門演習 C」「プロジェクト演習」「卒業研究 I」

後期

「基礎ゼミ D」「心理学概論 B」「社会・集団・家族心理学」「異文化間心理学」「専門演習 B」「専門演習 D」「プロジェクト演習」「卒業研究 II」

押岡大覚 教授

2 年：「公認心理師の職責」「心理学的支援法」「臨床心理学概論」「基礎ゼミ D」

3 年：「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」

4 年：「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究 I・II」

鈴木雅洋 准教授

[担当科目]

心理学研究法、心理学統計法、心理学基礎演習 I、心理学実験、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、神経・生理心理学、心理療法、基礎ゼミ D、プロジェクト演習 A～D、専門演習 A～D、卒業研究 I、II

富川拓 准教授

授業担当科目

- 前期：社会学概論、ボランティア論、基礎ゼミ C、インターンシップ A、ジョブメソッド、専門演習 A、専門演習 C、プロジェクト演習 A、プロジェクト演習 C、卒業研究 I
- 後期：地域社会学、インターンシップ B、専門演習 B、専門演習 D、プロジェクト演習 B、プロジェクト演習 D、卒業研究 II

多胡陽介 准教授

- 1 年：「スポーツ科学入門」にて最新のスポーツ科学の情報を伝えられるよう心掛けた。
- 2 年：「基礎ゼミ C」にて認知症予防エクササイズについて演習を行った。
また「基礎ゼミ D」の担任を担当した。
- 3 年：「専門演習 A・B」にて研究指導を行なった。今年度は履修学生の興味・関心を深められるよう各自でテーマを設定して、理解を深めることができた。
- 4 年：卒業研究 I・II の副担当および主査・副査を担当

小澤克彦 講師

前期

1 年

- 「表計算（基礎）①②」：大学生活で必要最低限の E X C E L を習得させた。
- 「アカデミックライティング A」：論理的思考を養うため S P I を中心に行った。
- 「情報処理入門③」：大学生活で必要最低限の W O R D、PowerPoint を習得させた。

2 年

- 「キャリアデザイン B」：パソコンの検定合格を目指した内容で行った。

3 年

- 「専門演習 A」「プロジェクト演習」

4 年

- 「専門演習 C」「プロジェクト演習」「卒業研究 I」

後期

1 年

- 「アカデミックライティング B」：論理的思考を養うため S P I を中心に行った。
- 「表計算（中級）」：高度な E X C E L の習得を目指した。
- 「統計学」：統計の基礎知識を難しい計算部分はパソコンを用いて行った。

2 年

- 「キャリアデザイン B」：パソコンの検定合格を目指した内容で行った。

3 年

「専門演習 B」「プロジェクト演習」

4 年

「専門演習 D」「プロジェクト演習」「卒業研究 II」

特記

対面で行っている授業で、コロナ感染不安のため大学に来れない学生のため、別途オンデマンドでもおこなった。

森雄二郎 講師

【担当科目】

(1 年次)

キャリアデザイン A (地域共生論含む)、基礎ゼミ A・B

(2 年次)

滋賀論

(3 年次)

専門演習 A・B／プロジェクト演習 A・B

(4 年次)

専門演習 A・B／プロジェクト演習 C・D／卒業研究 I・II

山越章平 講師

1 年：「基礎ゼミ A」「基礎ゼミ B」「スポーツ科学入門」

2 年：「基礎ゼミ D」「スポーツ心理学」「フィットネス・トレッキング演習」「キャリアデザイン B」

3 年：「専門演習 A・B」「コーチング論」「プロジェクト演習 A・B」

4 年：「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」「卒業研究 I・II」

池田龍也 講師

1 年：「心理学概論 A」「発達心理学」「心理学概論」

2 年：「感情・人格心理学」「心理的アセスメント I」「基礎ゼミ D」

3 年：「心理的アセスメント II」「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」「地域看護論」

4 年：「心理演習」「心理実習」「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」

木村大樹 講師

1 年：「人間関係論」

2 年：「心理学基礎演習 II」

3年：「教育・学校心理学」「福祉心理学」「心理的アセスメントⅡ」「基礎ゼミ D」「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」

4年：「精神疾患とその治療」「専門演習 C・D」「プロジェクト演習 C・D」

山口隆介 講師

1年：「基礎ゼミ A」「アカデミックライティング A」「基礎ゼミ B」「哲学」「世界史」

2年：「インターンシップ B」（「インターンシップ A」は不開講）

3年：「専門演習 A・B」「プロジェクト演習 A・B」

4年：「専門演習 C・D」「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」「プロジェクト演習 C・D」

2. 研究活動

唐楽寧 教授

論文

富川拓、唐楽寧「留学生のキャリア教育に関する一考察」『聖泉論叢』2021,29号 p38-52

李艶 教授

【論文】

1. 「在日外国人労働者の異文化適応についての調査研究（その1）」

聖泉論叢 No28 P.1-18

2. 「在日外国人労働者の異文化適応についての調査研究（その2）」

聖泉論叢 No28 P.19-40

【学会発表】

1. 「在日留学生の異文化適応についての調査研究（1）」

日本教育心理学会 第63回総会 オンライン開催

2021年8月21日～30日 論文集 ID:PC-025

2. 「在日留学生の異文化適応についての調査研究（2）」

日本教育心理学会 第63回総会 オンライン開催

2021年8月21日～30日 論文集 ID:PC-032

【2021 国際シンポジウム】

（オンライン形式）共同発表：

「文化心理学視点からコロナ禍による社会意識の変化を考えるーアジアとヨーロッパを比較して-その2」（主催校：タイ チェンマイ大学）

【日本心理学会「文化と心理学研究会」活動】

2021年度も公益法人日本心理学会の「文化と心理学研究会」の代表として、研究活動の運営・企画を行った。通算10年間、日本心理学会の文化と心理学研究会の活動が続けるこ

とができました。これまで大きな研究成果を上げ、国内外の大会で研究成果の発表ができました。

2021 年は引き続き「コロナ禍による人々の生活意識の変化・意思決定の変容」をキーワードとして取り上げ、共同研究を行った。具体的にコロナ禍による人々の考え方・意識の変容、さらに、コロナ感染拡大とともに広がる偏見、差別の問題、社会的な距離を保つことに伴う人々の心の疎遠感など、未曾有のコロナ感染拡大による人間の心の変容について取り上げた。微力ながら、聖泉大学の心理学研究活動は日本心理学界で周知するために努力した。

押岡大覚 教授

【学会活動】

- 2021 年 8 月 日本人間性心理学会第 40 回記念大会自主シンポジウム「PCA は絶滅危惧種なのか？」シンポジスト
- 2021 年 11 月 Association for Prenatal and Perinatal Psychology and Health 22nd International Congress (出生前・周産期心理学会第 22 回国際会議)「Transforming Society through Prenatal Memory (社会変革を起こしてきた人たちの語る胎内記憶)」コメンテーター*

<助成金による研究活動>

*2020 年及び 2021 年「聖泉大学学長裁量経費」による成果に基づく活動

鈴木雅洋 准教授

[学術論文]

(国際会議プロシーディングス、査読あり)

P. Silapasuphakornwong, H. Torii, M. Suzuki, K. Uehira, “Effects of embedded depth of internal printed ferromagnetic cell on data clarity of rewritable 3D objects”, NIP & Digital Fabrication Conference, Printing for Fabrication Online 2021 Final Program and Proceedings, pp. 28–31, 2021 年 10 月.

(テクニカルレポート)

鈴木雅洋, 加倉井優也, 高田英明, 上平員丈, “ヘッドマウントディスプレイを用いた仮想・実対象間の奥行き融合”, 電子情報通信学会技術研究報告, vol. 121, no. 211, pp. 50–53, 2021 年 10 月. (HIP2021-39)

[その他]

(国際会議アブストラクト、査読あり)

M. Suzuki, A. Yaguchi, T. Nakatsue, O. Masuda, K. Uchikawa, “ipRGCs contribute to glare sensation of high-intensity lights”, Perception, vol. 50, no. 1_suppl, pp. 63, 2021 年 12 月. (European Conference on Visual Perception, online, 2021 年 8 月 22～

27 日)

(国内学会・研究会)

鈴木雅洋, 矢口晶, 中枝武弘, 増田修, 内川恵二, “眩しさ知覚へ及ぼす ipRGC 応答の寄与”, VISION, vol. 33, no. 4, pp. 213, 2021 年 10 月. (日本視覚学会 2021 年夏季大会, オンライン, 2021 年 9 月 22~24 日)

富川拓 准教授

論文

- ① 大東貢生・富川拓,2021「日本におけるサービス・ラーニングの展開 (21) 一定時制高校での学びから」『関西教育学会年報 (61)』,pp.61-65.
- ② 富川拓・唐楽寧,2022,「留学生のキャリア教育に関する一考察」『聖泉論叢第 29 号』,pp37-52.
- ③ 柴田和子・富川拓・大東貢生・古川秀夫,2022,「日本におけるサービス・ラーニングの展開 (22) —「人間と社会」受講による日常生活の態度や能力の変化—」『聖泉論叢第 29 号』 pp.53-65.
- ④ 富川拓,2022,「コロナ禍における大学の情報教育に関する一考察-遠隔授業の視点から-」『佛大社会学第 46 号』,pp17-24.
- ⑤ 木脇奈智子・富川拓・新矢昌昭・大東貢生,2022,「日本における男女共同参画社会の展開 (10) -札幌市における取り組み-」『藤女子大学人間生活学部紀要第 59 号』,pp1-8.

多胡陽介 准教授

- ・学会参加 (日本体力医学会、日本バイオメカニクス学会)
- ・GAZZETTA MEDICA ITALIANA ARCHIVIO PER LE SCIENZE MEDICHE 誌にアクセプト連絡あり (2021/2/11)。Relationship between ground reaction force and lower limb movement during effective tackle motion in rugby football players

小澤克彦 講師

●研究活動

2020年度から小学校で必須となるプログラミングを彦根市教育委員会を連携して、行った。研究会・公開授業に参加して意見を出している。また、教育現場での実地調査を行っている。

森雄二郎 講師

【著書】

種別：共著 (分担執筆)

「多文化共生とは何かー社会変革の鍵概念としての再検討」今里滋 (編)『ソーシャル・イ

ノベーションの理論と実践』明石書店

【学会活動】

日本ソーシャル・イノベーション学会 企画委員会

【外部資金による研究活動】

同志社大学人文科学研究所第 20 期部門研究会「ソーシャル・イノベーション学構築に向けた総合的研究」（代表者：今里滋） 研究分担「多文化共生におけるソーシャル・イノベーション研究」

彦根市 委託事業「国際理解教育推進事業」

山越章平 講師

< 著書 >

1) なし

< 論文 >

単著・共著の別：共著（山越・土屋）

題目：「大学生アスリートにおける反芻・省察が主観的幸福感に与える影響における自己成長主導性の媒介効果」

掲載雑誌：体育学研究 第 67 巻（印刷中）

単著・共著の別：共著（的場・山越）

題目：「スポーツ活動経歴とスポーツの楽しさの関係：全国大会出場常連高の陸上ホッケー部からの検討」

掲載雑誌：聖泉論叢 第 29 号（2022 年 3 月発行）

< 助成金による研究活動 >

1) 科学研究費（2021 年 4 月～2023 年 3 月まで）

題目：「大学生アスリートにおける反芻・省察が競技パフォーマンスと精神的健康に与える影響」

池田龍也 講師

・書籍

細尾萌子・柏木智子（編）（2021）. 小学校教育用語辞典 ミネルヴァ書房（分担執筆範囲：攻撃性，反社会的行動，PTSD，DSM と ICD について執筆）

・論文

Yuhei Urano, Tatsuya Ikeda, & Jack Mearns (in print). Receiving assistance in emotion regulation: A preliminary investigation. *Personality and Individual Differences*, 188.

Yuhei Urano & Tatsuya Ikeda (2021). Perceived social support moderates the association between emotion regulation and psychological distress: a cross-sectional study among Japanese adults. *Psychology, Health & Medicine*, 26 (10), 1195-1205.

・研究報告

(口頭発表)

池田龍也・浦野由平 (2021). 新型コロナウイルス感染症による恐怖と精神的苦痛 日本心理臨床学会第40回大会 (2021年9月3日, オンライン開催)

(ポスター発表)

池田龍也・浦野由平 (2021). 解離性体験尺度 II の時間的安定性の検討: オンラインサーベイによる2017年と2021年の比較 第20回日本トラウマティック・ストレス学会 (2021年7月17日, オンライン開催)

木村大樹 講師

【論文】

木村大樹 (2021). 不安の基盤と自閉スペクトラム症の「不安とは言えない不安」. 聖泉論叢, 29号, 67-78.

Kimura, D., Chiba, Y. Yamasaki, M., Fuwa, S., Osawa, N., & Kobatake, J. (2021).

Development of categories to analyze sandtrays based on cases of Sandplay Therapy for elementary school students with neuroses. *Archives of Sandplay Therapy*, 34(1), 65-78. 木村大樹・千葉友里香・山崎基嗣・不破早央里・大澤尚也・小畠純一 (2021). 箱庭作品分析カテゴリーの開発——神経症圏の小学生の公刊箱庭療法事例を基に. 箱庭療法学研究, 34(1), 79-90.

【学会発表】

木村大樹 (2021.10.22-23). 自閉スペクトラム症者の自己意識——対人不安の語りとバウムテストから. 日本精神病理学会第44回大会 口頭発表 (オンライン).

【学会活動】

日本パーソナリティ心理学会 編集委員

【外部資金による研究活動】

令和3年度聖泉大学学長裁量経費

【その他】

(翻訳) Wong, Wei-Kwan (2021). An initiation of one's motherhood: The weaving work of Self manifested in Sandplay process. 木村大樹 (訳). 母親になることへのイニシエーション——箱庭療法過程に現れた自己を織り上げる作業. 箱庭療法学研究, 33(3), 81-90.

山口隆介 講師

研究ノート

単著・共著の別：単著

題目：「トマス・アキナスの *vanitas* 概念」

掲載雑誌：聖泉論叢 第 29 号 pp.149-164

発行年月日：2022 年 3 月

研究ノート

単著・共著の別：単著

題目：「『世界史』に哲学は寄与しうるか」

掲載雑誌：聖泉論叢 第 29 号 pp.149-164

発行年月日：2022 年 3 月

口頭発表（単独）

題目：「グルテンフリーのホスチアは認められるか ——トマス・アキナスの議論に基づいて」

2021 年 9 月 6 日、日本カトリック神学会第 33 回学術大会にて

口頭発表（単独）

題目：

2021 年 11 月 13 日、第 70 回中世哲学会にて

3. 地域貢献

唐楽寧 教授

地域活動

(1) 彦根市日中友好協会理事・副会長

(2) 『広報ひこね』2021 年 11 月号表紙に登場し、彦根市と中国湘潭市との交流について取材記事掲載。

- (3) 彦根市・中国湘潭市の2021年度交流事業への支援協力・調整
- (4) 彦根市・中国湘潭市友好都市締結30周年記念事業への協力（事前準備調整と友好締結30周年記念式典壇上通訳・12月21日彦根市文化プラザエコホールにて）

李艶 教授

○ 地域貢献

- ① 外国人労働者の適応についての講演（2021年8月） 大津市
- ② 2021 びわ湖東北部地域生涯学習講座（教養コース） 市民教養講座講師
（2021年8月～2022年1月末）

押岡大覚 教授

【研修会講師】

- 2021年8月 甲賀市教育研究会養護教諭部会夏季研修会「心の問題を持つ子どもへの対応—教育の現場に活かす複雑性(複合的)PTSD臨床の視点について」講師 主催：甲賀市教育委員会・甲賀市小学校教育研究会養護教諭部会（於：甲南公民館「忍びの里プララ」）
- 2021年8月 「身体的な心理療法—フォーカシングを体験しよう」講師
主催：一般社団法人がっこうヨガ推進委員会（於：オンライン）
- 2021年11月 PMEC スタッフ研修会「医療処置を受ける発達障害の子どもへの対応—医師・看護師・心理師それぞれの立場から—」講師 主催：PMEC（Positive Medical Experiences for Children; 子どもの採血・血管確保時の苦痛緩和のプログラム開発）プロジェクト（於：オンライン）

【講演会】

- 2022年1月 「胎児の心の世界への接近—胎生期から子供の心を育むためにできること—」講師 主催：東京都助産師会調布地区分会（於：オンライン）*

<助成金による研究活動>

*2020年度及び2021年度「聖泉大学学長裁量経費」による成果に基づく活動

富川拓 教授

委員等

- ① 滋賀県彦根市 男女共同参画審議会 会長
- ② 滋賀県甲賀市 男女共同参画審議会 委員
- ③ 滋賀県立伊吹高等学校 学校評議員

- ④ 滋賀県立伊吹高等学校 キャリア教育推進委員会 委員
- ⑤ 米原市総合計画審議会 副会長
- ⑥ 米原市学びあいステーション運営審議会 会長

講師等

- ① 2021年5月 彦根市役所主催 男女共同参画座談会 コーディネーター
- ② 2021年12月 米原市役所政策形成入門研修 講師 「ジェンダー平等入門」
- ③ 2022年2月 華頂短期大学講演会 講師 「キャリアとジェンダー」
- ④ 2022年2月 比叡山高等学校 土曜講座 講師 「ジェンダー入門」
- ⑤ 2022年2月 彦根市 オンライン講演会 コーディネーター「ジェンダー平等の新たな一歩～パートナーシップ宣誓制度の事例から～」

メディア掲載等

- ① 「滋賀県立男女共同参画センター G-NET しが 情報誌 vol.41」 2021年10月1日発行（原稿掲載）
（ア）「大学生によるジェンダー平等プロジェクト」
- ② 「彦根市役所 広報ひこね」 2022年1月1日発行（富川研究室の活動が掲載）
（ア）「十人十色プロジェクト～性の多様性を知ってもらおう～」
- ③ 「中日新聞」 2022年1月9日発行（富川研究室の活動が掲載）
（ア）「米原市職員と聖泉大生 LGBT 一緒に考える」
- ④ 「中日新聞」 2022年3月10日発行（富川研究室の活動が掲載）
（ア）「性別に縛られない化粧」普及へ提案」

小澤克彦 講師

- 生活困窮家庭を対象とした学習支援活動を行った。
毎週月曜日、19時～21時、彦根市中地区公民館

森雄二郎 講師

【委員会活動】

彦根市 多文化共生推進委員会 委員長
彦根市教育委員会 点検評価委員会 委員長

【研修講師・出前授業等】

（研修講師）

2021.8.31 社会福祉法人びわこ学園「職場でのコミュニケーション」

2022.1.31 社会福祉法人びわこ学園「職場のより良いコミュニケーションを目指して」

(高校への出前授業)

2021.7.14 河瀬高校 「多文化共生とは何か」

2021.12.3 KTC おおぞら高等学院 「あつ、こんなところにも心理学」

2022.1.12 彦根工業高校 「多文化共生を考える」

池田龍也 講師

2021 年 7 月 9 日 比叡山高等学校にて『ネガティブ感情は悪者か?』と題した模擬授業を実施した。

2021 年 7 月 29 日 高校生を対象とした滋賀県教育委員会高大連続講座にて講師を務めた。演題は『呪術と心理師』であった(聖泉大学にて開催)

2021 年 9 月 7 日 研究者を対象として『トラウマと周辺』について専門知識を提供した(オンラインにて実施)

2021 年 9 月 10 日 滋賀県後期高齢者医療広域連合からの要請に基づき、『ハラスメント防止研修 ハラスメントのない職場を目指して』と題したハラスメント防止研修会の講師を務めた(滋賀県後期高齢者医療広域連合(滋賀県大津市)にて開催)

2021 年 9 月 20 日 教員免許状更新講習会にて、『子どもの発達に関する最新知見(脳科学・心理学等)』と題した講習の講師を担った(広島文化学園大学にて開催)

2021 年 9 月 29 日 米原高等学校にて『心理のお仕事』と題した職業ガイダンスを実施した。

2021 年 11 月 25 日 長浜農業高等学校にて『心理系の仕事』と題した職業ガイダンスを実施した。

2021 年 12 月 2 日 高校生の総合的な学習の時間のために、取材協力した。先方の要望で『トラウマと PTSD に関する専門知識』について取材に応じた(オンラインにて開催)

2021 年 12 月 16 日 堅田高等学校にて『心理職の仕事』と題した職業ガイダンスを実施した。

2022 年 1 月 20 日 長浜北高等学校にて『サイコパスの心理学』と題した模擬授業を実施した。

2022 年 2 月 24 日 全国の警察官および検察官を対象とした「障害を持つ人々への司法面接講座」にて講師を務めた。主催者の要望で『PTSD と複雑性 PTSD』と題して講義した(オンライン開催)

2022 年 3 月 10 日 KTC おおぞら高等学院にて『自分を知る性格判断』と題した出前授業を実施した。授業は複数のキャンパスに同時中継された(ハイブリッド開催)

委員会活動
(2021 年 4 月～2022 年 3 月)

2－1 教務委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：富川拓
- 2) 委員：鈴木雅洋、押岡大覚、多胡陽介、森雄二郎、山口隆介、山川直美、北川慎吾

2. 所掌事項

- 1) 教育事務に関わる業務
 - ・カリキュラムに関わる業務
 - ・時間割作成・授業担当者決定に関わる業務
 - ・履修登録に関わる業務
 - ・授業に関わる業務
 - ・試験に関わる業務
 - ・成績評価・単位認定に関わる業務
 - ・進級に関わる業務
 - ・卒業研究に関わる業務
 - ・卒業判定に関わる業務
- 2) 学籍に関わる業務
- 3) 学年暦に関わる業務
- 4) 科目等履修生・聴講生・研究生に関わる業務

3. 委員会活動

4 月	前期受講状況調査 第 1 回 期間：4 月授業開始時～5 月上旬 第 1 回委員会 (4/6) 第 2 回委員会 (4/27) 議決：学籍異動 報告：新型コロナウイルス状況下での不開講科目について
5 月	前期受講状況調査 第 2 回 期間：5 月上旬～6 月上旬 第 3 回委員会 (5/11) 議決：仮題目未提出者への対応 報告：新型コロナウイルス対応
6 月	前期受講調査 第 3 回 期間：6 月上旬から 7 月上旬 第 4 回委員会 (6/1) 議決：学籍異動

	報告：秋卒業生の卒業研究発表会
7 月	第 5 回委員会（7/6） 審議：研究生出願要項承認 報告：卒業研究の遅延届について
8 月	第 6 回委員会（8/3） 第 7 回委員会（8/24） 審議：後期履修登録とガイダンス、非常勤講師選定 報告：自己点検と中期計画
9 月	第 8 回教務委員会（9/7） 審議：学籍異動、卒業判定 協議：後期履修登録とガイダンス 報告：再試験実施状況
10 月	後期受講状況調査 第 1 回 期間：10 月上旬～11 月上旬 第 9 回委員会（10/6） 審議：学籍異動 協議：再履修クラスの開講
11 月	第 10 回委員会（11/2） 審議：2022 年度学年暦 協議：令和 4 年度カリキュラム 報告：教務委員会予算
12 月	第 11 回委員会（12/7） 審議：後期定期試験要項、令和 4 年度カリキュラム
1 月	第 12 回委員会（1/4） 審議：非常勤講師依頼 協議：環びわ湖大学・地域コンソーシアムへの科目提供について 報告：遠隔希望学生への対応、成績不振者への面談状況
2 月	第 13 回委員会（2/1） 審議：学則一部改正 協議：シラバスチェックについて 報告：2022 年度時間割について 第 14 回委員会（2/22） 審議：卒業判定
3 月	第 15 回委員会（3/1） 審議：学籍異動、長期履修申請 協議：2022 年度卒業研究担当者について

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-2 学生委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：森雄二郎
- 2) 委員：池田龍也、木村大樹、那須由美子、永池早苗

2. 所掌事項

- 1) 学生生活に関わる業務
 - ・学生の自主活動(課外活動・ボランティア等)に関わる業務
 - ・学生の自治に関わる業務
 - ・学生の団体(クラブ・同好会等)に関わる業務
 - ・学生の健康に関わる業務
 - ・学生の安全にかかわる業務
- 2) 奨学金（外部）にかかわる業務
- 3) 学長表彰・学長奨励表彰にかかわる業務

3. 委員会活動・総括 3. 委員会活動

4 月	学生対応等平常業務
5 月	学生対応等平常業務 第 1 回委員会（5/13） 協議：役割分担、要配慮学生支援、退学防止に係る学生面談
6 月	学生対応等へ移譲業務 第 2 回委員会（6/15） 協議：クラブ活動、学園祭、要配慮学生保護者面談
7 月	学生対応等平常業務 第 3 回学生委員会（7/20） 審議：奨学金の推薦 協議：クラブ勧誘、学園祭
8 月	学生対応等平常業務
9 月	学生対応等平常業務 第 4 回委員会（9/28） 協議：後期の行動指針 報告：学園祭について
10 月	学生対応等平常業務
11 月	学生対応等平常業務
12 月	学生対応等平常業務

1 月	第 7 回学生委員会（1/18） 協議：要配慮学生、卒業パーティ 報告：学長表彰
2 月	学生対応等平常業務
3 月	学生対応等平常業務

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

2-3 進路支援委員会

1. 構成メンバー

委員長：炭谷将史、委員：多胡陽介、木村大樹、那須由美子、川並真由美

2. 所掌事項

学生の進路支援に関わる業務、資格取得・検定試験合格等の支援に係る業務

3. 委員会活動

4 月	第 1 回委員会（4/27） 協議：委員会の役割分担について 報告：ジョブメソッドの予定案
5 月	第 2 回委員会（5/25） 協議：シガジョブパークによる支援について 報告：ジョブメソッドの進捗状況
6 月	第 3 回委員会（6/29） 協議：6 月末現在の進路状況
7 月	第 4 回（7/27） 協議：7 月末現在の進路状況について
9 月	第 5 回（9/28） 協議：9 月末現在の進路状況について
1 月	第 8 回委員会（1/25） 協議：1 月末現在の進路状況について

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-4 FD 委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：方蘇春
- 2) 委員：森雄二郎

2. 所掌事項

ファカルティ・ディヴェロップメント(教育機能の向上)に関わる業務

- ・研修会に関わる業務
- ・授業アンケートに関わる業務
- ・教育力を高めるための共通意識形成に関わる業務

3. 委員会活動

新型コロナウイルス状況下につき例年通りの研修会は行われなかった。

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-5 広報委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：多胡陽介
- 2) 委員：炭谷将史、小澤克彦、池田龍也、田中悟、今宿團、宮川華

2. 所掌事項

- 1) 大学広報に関わる業務
 - ・学部の活動に関わる広報
 - ・教員の活動に関わる広報
 - ・学生募集に関わる広報
- 2) オープンキャンパスに関わる業務

3. 委員会活動

4 月	第 1 回委員会 (4/7) 議事：広報戦略について
5 月	第 2 回委員会 (5/18) 議事：オープンキャンパスについて
6 月	第 3 回委員会 (6/15)
7 月	第 4 回委員会 (7/20) 議事：オープンキャンパスについて
8 月	第 5 回委員会 (8/24) 議事：新規 OC 参加者獲得に向けて
9 月	第 6 回委員会 (9/21) 議事：9～10 月の高校訪問、入試対策講座
2 月	第 10 回委員会 (2/1) 議事：大学案内の編集、次年度オープンキャンパスの予定

4. 総括

【最終総括】委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2－6 入試委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：機密性が高いので秘匿。
- 2) 委員：機密性が高いので秘匿。

2. 所掌事項

入試に係る業務

3. 委員会活動

定例委員会を行った。機密性が高いのでスケジュール等詳細は秘匿。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-7 紀要委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：山口隆介
- 2) 委員：山越章平

2. 所掌事項

『聖泉論叢』に関わる業務

- ・『聖泉論叢』発行に関わる業務
- ・『聖泉論叢』頒布に関わる業務

3. 委員会活動

4 月	第 1 回委員会（4/12）本年度スケジュールと役割分担を審議、確定。 4/26 紀要投稿希望者調査開始
5 月	第 2 回委員会（5/10）業務状況確認。
6 月	第 3 回委員会（6/14）業務状況確認。
7 月	第 4 回委員会（7/12）業務状況確認 7/26 紀要投稿希望者調査終了
8 月	第 5 回委員会（8/10）投稿希望調査結果報告。投稿希望者全員に執筆依頼。
9 月	第 6 回委員会（9/14）印刷業者選定
10 月	第 7 回委員会（10/11）印刷業者選定
11 月	11/5『聖泉論叢』原稿回収。 第 8 回委員会（11/9）進行状況確認。印刷業者選定。
12 月	聖泉論叢発行に向けての作業 第 9 回委員会（12/13）進行状況確認。
1 月	聖泉論叢発行に向けての作業 第 10 回委員会（1/10）進行状況確認。
2 月	聖泉論叢発行に向けての作業 第 11 回委員会（2/14）進行状況確認。紀要の増刊について協議
3 月	聖泉論叢発行に向けての作業 第 12 回委員会（3/14）進行状況確認。紀要の増刊について協議 3/25 『聖泉論叢』29 号納品。学内頒布および学外頒布完了。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-8 スポーツ・身体運動支援センター

1. 構成メンバー

- 1) センター長：多胡准教授
- 2) メンバー：炭谷教授、山越講師、山堀助教、後藤助手、宮崎監督

2. 所掌事項

- (1) 学生の課外のスポーツ活動を支援するための事業
- (2) 地域スポーツ活動の振興に寄与するための事業
- (3) スポーツ振興のための研究・調査に関する事業
- (4) その他、センターの目的達成のために必要な事業

3. センター活動

4 月	第 1 回定例会 (4/20) 協議：センター事業と役割分担について 報告：特別クラブの活動状況
5 月	第 2 回定例会 (5/18) 報告：特別クラブ学生の活動状況
6 月	第 3 回定例会 (6/15) 報告：各部の試合結果、学生募集について、要支援学生の現状

4. 総括

センター活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上

2-9 公認心理師委員会

1. 構成メンバー

- 1) 委員長：押岡大覚
- 2) 委 員：池田龍也 木村大樹

2. 所掌事項

聖泉大学人間学部における公認心理師養成に係る業務

3. 委員会活動

- 「聖泉大学人間学部公認心理師委員会規程」を策定した。
- 「聖泉大学公認心理師受験資格取得に係る心理演習及び心理実習の申し合わせ」の改訂を行った。
- 「聖泉大学公認心理師受験資格取得に係る心理演習・心理実習受講希望調査書」を策定した。
- 「『心理実習』実習生が守るべき義務と心得」の原案を策定した。
- 「心理実習 記録簿」の原案を策定した。

4. 総括

委員会活動の一年間の活動を振り返り所掌事項とすりあわせ、自己点検評価を行い、委員会として機能していることを確認した。

以 上